大日本蠶絲會報

第六拾參號

明治三十年九月

目次

◎論說
●二十七年度より今日に迄る横濱の繭況　大日本蠶絲會員　橋本重兵衛
●繭の形狀に就て　大日本蠶絲會員　山本竹藏

◎寄書
●蠶絲業に關する意見（承前）　大日本蠶絲會員　八田道也
●秋蠶業（承前）　鳥羽久晉
●高橋先生に感謝し併せて同業者諸君に微旨の在る所を論ぐ　大日本蠶絲會員　市瀨善治

◎問答
●蠶種檢査其他に就き質問并に答●赤色蠶兒と硫酸瓦斯の關係に就き質問并に答●最も完全なる殺蛹法及び藏法（少量の繭）に就き質問并に答●繰糸接續に就き質問并に答●蠶兒に就き質問并に答●馬尾鬃に就き質問并に答

◎統計
●三十年六月中生絲屑物類輸出數量元價收支統計●三十年六月中生絲屑物類輸出數量元價收支統計●三十年七月中繭物類輸出數量元價統計●三十年七月中繭物類輸出數量元價收支統計●伊國西國各市場取引高

◎外報
●佛國製絲業奬勵法續續出●佛國製絲業奬勵法存廢●ブルース養蠶業の趨向●歐米生絲市況●清國蠶業地方生産費及其影響●蘇州現在製絲所概況●紐育生絲商況●印度の蠶絲業

◎雜報
●新潟支會品評會●蠶業試驗所●蠶業講習所卒業式●蠶種檢査法未施行地●横濱生絲檢査所生絲檢査●神戸生絲檢査所生絲檢査●清國蠶況●横濱報●東歐諸國養蠶結果の評論●英國蠶況●生絲産額出數調査●北海道川兵村蠶況●生絲産額出數調査●水戸縣況●秋蠶況●秋蠶なりし理由●豐多摩郡の払出●新潟縣の蠶種檢査●高島郡の蠶種檢査●共同繭蠶同盟の好結果●岡山北備原郡蠶種家懇話會●福島縣の蠶種檢査●岩手縣の好結果●出羽法川直三郎氏の名譽●兒玉義長氏小傳●奈良縣字陀郡繭品評會●蠶業奬勵式●養蠶改良高山社同盟會●上毛蠶業同志會の報告會

大日本蠶絲會職員

幹事長

農學士 紫藤章 高木喜三郎

幹事

農學士 本多岩次郎 橋信貞 木村直清 岡田清藏

評議員

農學士 芳賀權四郎 橋本重兵衛 田原休三郎 田中節之丞 岡本信貞 辻原太郎 河原次郎 石川延次郎 芳賀本金一郎 鹽澤繁胤 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 高橋信太郎 田中節之丞 橋本信貞 辻原太郎 河原次郎 石川延次郎 芳賀本金一郎 鹽澤繁胤 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 青木仁作 足立元太 松永伍作 町田菊次郎 永島禮七郎 辻原太郎 高橋信太郎 田中節之丞 岡本信貞 圓月文助 中村半左衛門 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 平井時敬 石川延次郎 芳賀本金一郎 鹽澤繁胤 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 大本小三郎 星野長太郎 橋本重兵衛 八田延次郎 川市次郎 伊藤小左衛門 今西直次郎 佐々木忠二郎

理學博士 佐々木忠二郎

農學士 紫藤國太郎 下田伊左衛門

技藝委員

農學士 今西直次郎 佐々木忠二郎

農學士 菅野平右衛門 渡部雄也 大堀林正太郎 星野長太郎 橋本重兵衛 八田延次郎 市川次郎 伊藤小左衛門 今西直次郎 佐々木忠二郎

農學士 高橋信太郎 高木三之丞 横井時敬 田中節之丞 原休三郎 田中節之丞 松永伍作 町田菊次郎 藤本善右衛門 船津傳次平 藤本善右衛門 青木山忠二郎

理學博士 佐々木忠二郎

農學士 紫藤國太郎 下田伊左衛門

農學士 藤本善右衛門 船津傳次平 藤本善右衛門 青木山忠二郎

理學博士 佐々木忠二郎

農學士 鹽澤繁胤 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 芳賀本金一郎 鹽澤繁胤 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 石川延次郎 芳賀本金一郎 鹽澤繁胤 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 辻原太郎 河原次郎 石川延次郎 芳賀本金一郎 鹽澤繁胤 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 足立元太 圓月文助 中村半左衛門 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 岡本信貞 中村半左衛門 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 紫藤章 高木喜三郎

地方委員

東京府 農學士 毛利正容 鈴木武太郎 呂藤太郎 木村喜右衛門 田村重兵衛 角田喜九郎 木村彦右衛門 橋本重兵衛 中村半左衛門 下田伊左衛門

同 神奈川縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 栃木縣 山梨縣 長野縣 福島縣 山形縣 農學士 足立元太 圓月文助 中村半左衛門 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 辻原太郎 河原次郎 石川延次郎 芳賀本金一郎 鹽澤繁胤 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 岡本信貞 中村半左衛門 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 紫藤章 高木喜三郎

農學士 高橋信太郎 田中節之丞 橋本信貞 辻原太郎 河原次郎 石川延次郎 芳賀本金一郎 鹽澤繁胤 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 足立元太 圓月文助 中村半左衛門 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 岡本信貞 中村半左衛門 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 紫藤章 高木喜三郎

農學士 高橋信太郎 田中節之丞 橋本信貞 辻原太郎 河原次郎 石川延次郎 芳賀本金一郎 鹽澤繁胤 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 足立元太 圓月文助 中村半左衛門 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 岡本信貞 中村半左衛門 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 紫藤章 高木喜三郎

農學士 高橋信太郎 田中節之丞 橋本信貞 辻原太郎 河原次郎 石川延次郎 芳賀本金一郎 鹽澤繁胤 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 足立元太 圓月文助 中村半左衛門 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 岡本信貞 中村半左衛門 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 紫藤章 高木喜三郎

農學士 高橋信太郎 田中節之丞 橋本信貞 辻原太郎 河原次郎 石川延次郎 芳賀本金一郎 鹽澤繁胤 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 足立元太 圓月文助 中村半左衛門 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 岡本信貞 中村半左衛門 下田伊左衛門 芝山直清 木村清藏

農學士 紫藤章 高木喜三郎

大日本蠶絲會報第六拾參號

論說

二十七年度より今日に至る横濱の絲況 第六回大集會演說

大日本蠶絲會員　橋本重兵衛

私は先年から……先年からと云ふても餘り長いことでもございませぬが近頃の生絲の沿革から御話を致さうと存じます、御承知の通り二十七年度の七月より生絲取引所を云ふるのが起りました、其取引所が如何なる關係を有ち又如何なる狀況をなして居るかと云ふことを皆樣に御話をする積りでございます、就きましては二十七年の七月起りました所の生絲取引所は自身に骨を折つて拵へたので、皆樣に對して相濟みませぬが、其取引所はどう云ふ弊害があるかと云ふことを能く御話を申上げたうございます（此時表を示す）夫れで此下の方にございますのは亞米利加の太絲の一番が運動致しました る月〻の相場でございます、此が亞米利加の爲換が動かしました る所の相場でございます、月〻の平均直段と此と換算して亞米利加で如何なる直段に日本の一番絲が賣れて居るかと云ふと、此處にございます赤いのが亞米利加へ賣れて居る所の相場でございます、そこで横濱の同じ一番の絲が幾許で取引になつて居るかと云ふと、黑い筋が横濱の平均の直段でございます、さうすると相變らず亞米利加の直段より横濱の直段が廉かつたと云ふことは能く分つた話でございます、そこで此横濱の取引所が

どう云ふ弊害を爲して居るかと云ふと、私が非常な熱心を以て拵へたのであるから實に皆さんに對して申譯がございませぬ、併ながら今日の如き有樣になならうとは私は考へなかつた、夫れはどうであるかと言つたならば常に損得と云ふことがございますものですから、金を積んで歐羅巴亞米利加に派出員を出して電信及通信を取つて、殊に損得と云ふことに關係が有る に由つて非常の熱心勉强を以て此市場を保護して善くしやうと思つた、處がどうも案外にさういかなかつた、と云ふものは亞米利加の直段が明治二十七年七月の時は幾許であつたかと云ふと、同じ一番の絲は換算して見ると七百八十圓であつた、此年に横濱の直段は幾許で起つたかと云ふと、六百九十圓で起つた、從つて取引所相場の當限直段は六百圓と云ふ所で起り始めた、夫れだから此所の換算が稍〻横濱の取引所當限相場は八十圓廉い、そこでまだ此年は幼稚でございますから追附きませぬが、翌二十八年になつて横濱の市場の運動と一緒に歩くことが出來て來た、そこで非常に悪いと云ふのは此二箇所でどう云ふ所が悪いかと云ふと、眼中に外國と云ふことが一もございませぬから、外國市場の如何なる所に行かうとも、自身さへ利を得れば宜いと云ふ念を以て起つたものでありますから、夫れで四五六月の間に非常の廉直を作り出しました、非常の廉直を作り出したのは、どう云ふ所から來たかと云ふと、抑〻横濱の外國人が廉く新絲を始めたいと思ひ夫れから日本の賣込商が廉くしたく思ひ、製絲家も新繭を廉く買入れの目的を以て唯廉く〳〵と云ふことで眼中外國と云ふことが更に無い所の人〻がやるものでありますからして絲が市場に少なくなつて來ると斯う相場が落ちて來た、品のある内は何分か感じがあるが不足すれば直ぐ落ちて仕舞う、此が一番初めに起つた、そこで此が四五六月の間に落ちて來て去年十月の

所でどう云ふことになつたかと云ふと、亞米利加に金貨本位の大統領が出來たと言つて直ぐと周章してぼかつと搗き上げる、さう云ふことをしてはいかぬ、さう云ふことがある爲めに此取引所が外國の市場一般に對して派出員を出して上海、紐育、里昂等から通信をなし又電信を以てしたなら斯う云ふ阿呆なことは出來ない、どうぞ日本の是程大切なる所の生絲に向つて斯樣な阿呆なことをしてはいかぬ、そこで常に此取引所がいつでも斯う引倒されると市場一般に不景氣を告ぐるやうなことが出來て來る、夫れであるからどうしても此は誠に困つたものでございます、此は是非とももう少し機敏に歐羅巴、亞米利加の間に通信を置かないでは大變困る、結構な生絲も出來、改良した所でどうするかと云ふと、一番販路と云ふものが此上もない大切なものである、何程結構な生絲を作つても横濱でどうか買つて呉れば宜しい、必ず來て買うだらうと思うと夫れは大なる間違ひである、元と二萬俵か三萬俵乃至五萬俵位なればどうして居ッても賣れる、併し今日以後世界の市場と拮抗して行かうと云ふ有樣であつたならばどうしても直輸出をしなければならぬ、直輸出をしなければならぬと言ッた所が又此直輸出に就て弊害も有りませう、詰り横濱に賣れると云ふことは相違ないことゝ思ふ、そこで今日の商業の有樣はどう云ふ有樣で來て居るかと云ふことは沿革で能く分る話であります、此先きの御話は私は一向知らぬ話であるが、或人から聞いた所の話をちよつと御參考に申します、其以前に聞きました所の話に依つて見ますると、地球が十回轉を爲せば太陽が一回轉を爲すと云ふことがあるさうでございます、此太陽の一回轉に向つて殊の外の不景氣を製造すると云ふことを聞いたことがございます、詰り其太陽の一回轉が昨年度に當つて居りますが、どう云ふ譯で此不景氣と云ふものを拵へ出した

かと云ふと、此地球の水に於けるが如く空氣以外へ一滴でも洩れ出るものではない、又地球の空氣以外から一滴も還入つて來るものでもないと云ふことは能く分つた話である、然る所が或る天文學者の言ふのには非常に大狂ひがあると云ふ話でございます、皆さんの中には御承知の方もございませうが、太陽の球の中から噴出す所の火は三千哩も噴くさふである、夫れは私は受賣りでございますから一向知らぬ話です、三千哩も噴く所の火が十年目に一回、例へば百萬哩の間に百箇の穴がある、夫れから十年目に至りますと五十箇と云ふやうに甚だ減じた所の穴が出來るさうです、さうすると此穴が少なく火の出方が少ない爲めに農產物には甚だ利いて來る、夫れで昨年の如きは墺太利で羊が澤山死に、又亞米利加で小麥の收穫がよくない、印度に大饑饉が起り、日本に水害が起り、支那にも同じく水害が起り、又歐羅巴にては葡萄が不作した、あの通りの不景氣を來したと云ふことがございます、夫れが抑〻千八百九十六年度即ち昨二十九年にぴつたりとあてはまつて居ります、夫れでどう云ふ所の關係を以て不景氣を拵へたかと云ふと、需用供給の間に供給が非常に增して來た所に向つて變化が來たと云ふことでございます、夫れで今日以後の御話は私は聞き學問でございますから確に御請合ひは出來ませぬ、けれども今日以後の所は英國の大經濟學者の言ふた所の御話を致しますと、今年は商賣の運動に迷つてさうして供給と云ふものが非常に減じて仕舞つた、さうして需要の方も立派でなかつた、所が是から一年間迷つて翌年即ち三十一年度に至ると需用の方から供給を呼出すに斯う云ふ風に百の需用に向つて一の供給しかない有樣に順々引かれたのである、然る時は其需用が十分供給の方に滿足を與へる程に作らなければならぬが、前の失敗に恐れてさうして段々引出して來て始めて需用と供給

と相密着して權衡を保つことが出來る、太陽の變化から向つて六年目に當る年でございます、其六年目に當つた時は需用と供給とが眞直になつて仕舞つた、其時は今の供給者が十箇乃至二十箇の品物を持つて居つて下がると云ふ時は驚いて賣らなければならぬ、所が六年目に當つて百箇の荷物が萬箇に至つても千萬箇に至つても一向相場と云ふものを落さぬ、又其有樣で進んだ所が收益が澤山嵩んで居るから決して恐れぬ、夫れから始めて七年目から需用より供給の方が順々と增加して非常に澤山になつて來た、澤山になつて來た所で又十年目に當ると例の太陽のひつくり返へりが出來て夫れで間違うことがあるさうでございます、夫れが抑〻昨年度に當つて居つて當年は必ず迷つて居る年であると云ふことをちよつと聞いたことがございます、夫れで生絲の有樣は今日どう云ふ風な有樣で成來つたかと云ふと、反對に横濱で景氣の能くなつて來たのは抑〻印度の饑饉が紹介したのです、印度の饑饉がどう云ふ譯で紹介したと云ふと、二月中に横濱の新九十番が大に生絲を買入れた、夫れはどう云ふ譯から買初めて來たかと云ふと、どこの國でも不景氣になるべき原則が分つた、所が印度の饑饉が昨年十一月から起つて此一月が一番多かつた、五百萬人より或は少なくとも百萬人は死ぬだらうと云ふ位の話でございました、そこで此饑饉を救ふ爲めに英國では非常に力めて見た所が金が無いから殆ど困つて居つた、所で各國へ義捐を仰いで金が出來ると云ふことが稍〻決つた、夫れならばと云ふ所からして亞米利加の小麥を買い初めた、日本にも澤山米國小麥の粉が來て居ります、夫れが亞米利加では近頃四年間ばかり賣れぬに非常に困つたのである、所が樂外にも非常に賣れた北米合衆國シカゴを中央としてこちらの方は東洋へ賣り、紐育州の方は歐羅巴に賣ると云ふやうに從來兩方に賣つて居た所

の小麥が非常に溜つて殆ど降參して居つたが夫れが印度の饑饉の爲めにすつかり奇麗に賣れて仕舞つた、其賣れた高は幾許であるかと云ふと、大略二千五百萬弗である、船賃を取れば三千萬弗ばかり一時に賣れた、そこで横濱にある所の小麥はどうなつたかと云ふと、現今は二割五分高でなければ賣ちぬと云ふやうになつた、日本では此小麥に始ど困るやうな有樣になりました其小麥を以て印度を助けると云ふことになつた、抑と新九十番が見込んで必ず小麥が賣れたならば非常な宜い景氣が出ると云ふ所で有る丈けの太絲を買入れた、所で外國人が相違いで買うだらうと思つたが案外にも買はなかつた、此は變だどう云ふ譯で他の外商が買はなかつたかと云ふと、クリート島の事が起りはせぬかと云ふ所からして大變たまげて居つた、所がクリート島の戰爭も大にならぬと云ふ見當が稍〻附いて來ると同時に亞米利加へ這入つた金がずつと斯う散布されて亞米利加の景氣が起りかけて來た、そこで我が衆議院で議した所の金貨問題がぱつと通過した、夫れでがつたりと銀塊の相場を落して仕舞うと、大變樂になつてずん〳〵這入つて來た、そこで是からどうなつて來るかと云ふと、今日の所では大變工合の宜いと云ふ所で取引所で盛に提灯をどし〳〵付けて晝間非常に大きな提灯をくつ付けたから今日は馬鹿に高くなつて仕舞つた、そこで新九十番も幾許か後を引いて前に買つた荷物は下げぬやうにし、又他の買手も來て居るのでございます、先づさう云ふやうな振合ひで今日の景況を爲したのでございます、併ながら生絲と云ふものが例へば數年來から斯う來て居る所で歐羅巴が不作と云ふと必ず景氣が出て來る、出て來るけれども歐羅巴の不作と云ふものはちつとも當てにならぬ、一度出ればもう夫れがお仕舞ひであります、からそこは能く御考へにならぬと遊ぶ、と云ふものは世界中生絲集散統計表の說明に據れば歐羅巴で豐況……夫れはどこの國を取つたかと云ふと、伊太利の收獲が歐洲中一番であるから伊太利の收獲から取りました、各國へ集散する生絲はどうであるかと云ふと、日本からは亞米利加へも出て行き、又歐羅巴へも出る所で其絲の數量はどう云ふ風に運動して居つたかと云ふと、此はすつかり分つて居ります、夫れで不作になるとどう云ふことが起つて來るかと云ふと百斤五百圓の生絲が明治九年に千二百圓迄に飛上つたことがあります、夫れはどう云ふ譯であるかと云ふと、抑抑不作の爲めに來た、そこで後はどうなるかと云ふと、銀貨の爲めに紹介されて非常に都合能く賣れた、そこで不作と云ふ時は明治九年、十二年に當ります、夫れは大變高直に賣れました、假令今日の直段で七百圓のものでも或は千二百圓迄に行くことがございます、けれども翌年の四五六月の間には必ず元の直段に復るものと思はなければならぬ、夫れはどう云ふ風に復るかと云ふと、支那に非常に大なる所の供給地がある、獨り歐羅巴ばかりが大なる供給地でない、支那人は着物をきずに賣つて仕舞うと云ふ囈ごで……一千五百萬「キロ」の時の其生絲の動き方は幾許かと云ふと、五千萬「キロ」伊太利で收獲して居つて八百四十萬「キロ」の絲が動いて居る、そこで一千五百萬「キロ」しか取れない時に絲が幾許動いて居るかと云ふと、七百萬「キロ」動いて居る、斯う云ふ割合に出來て居ります、總て高いと云ふのは歐羅巴の不作より起つて絲が高いと云ふならば其時は高いのであつて翌年迄維持して行くと云ふ考へをすると非常な間違ひが出來るです、又今日の直段が高いか廉いかと云ふと、夫れは實に廉いものでございます、佛蘭西の直段にして百三十「フランク」が今日四十二三「フランク」であつたならば廉いに限つて居ります、又消費する所の絲の七百萬「キロ」のものが丁度二倍になつて千四百萬

「キロ」になつて居る、左りながら絹織物等の進歩の度が大に盛になつて來ましたから其邊の所は二倍出來やうが三倍出來やうが差支ないと思ひます、詰り消費する所の度合が隨分殖えて居ります、夫れで今度の金貨問題はどんなものもございませうか、是は私は餘程考へなければならぬことゝ思ひます、少しく調べたものもございますから此頃に書く積りでございます、生絲の輸出に對して餘程至難ではないかと思はれますが、其結果何れの邊に參りますかまだ分りませぬ、今日は先づ此邊で御免を蒙ります(拍手大喝采)

繭の形態に就て

大日本蠶絲會員　山本竹藏

本邦の生絲に輪類(又質類と云ふ寧ろ輪類の名を以て妥當とすべし類の形及び名に就ては後日論ずる所あるべし)多きは捨置き難き缺點なり最も此輪類の起るは種々なる事情に由るものなれば皆無となすことは望むべからざることにして(八釜しき外國絲にも絕無にはあらざるなり)予輩の希望は極めて少なからしむれば足るものとす而して極めて少なからしむることは敢て爲し難きことにあらずと確信す

今予は他の事情を捌き繭の形態が輪類に及ぼす關係に就き少しく說述する所あらんとす最も繭の形態のみ善を盡し美を盡したればとて養蠶家製絲家が他を捨棄して重きを是のみに置くが如きは思はざるの甚しきものなれども望むべくんば善美の品種を概定し蠶家立脚の根底を造るも亦可ならずや近來世上角又種の試育物與せるが如きもの焉んぞ斯の如き理由によるものにあらざらんや是予が本稿を草するも無益に非ずと思惟する所以なり

予が調査する所に據れば製絲に望むべき繭の形態は從來我日本に飼育せらるゝ品種中に在ては實に繭の中央に「クビレ」なき支那種(清白とも云ふ)を以て最大一等尤物と謂はざるを得ず

從來支那種を唱導するもの之なきにはあらざりし予輩も亦之に雷同附和したることありし然るゝ多少の遊蠶等のありしが爲に何時の間にやら泣寢入となりしなり予輩は今更思へば當時我れ人共に勇氣なかりしことを相吊せざるを得ず蓋し飼育の方法の如きは如何樣にも講ぜらるべきものにして(强壯なる系統を求むるか或は作ることも爲し得ざるに非ず)些細の事情の故を以て深く考ふる所なく絕好無比の蠶繭の形態を固有する支那種を下火ならしめたるは今更思へば惜むべきの限りと謂ふべし嗚呼既往は論ぜずして可なり來者尙ほ追ふべし製絲家たるものは必ず斯の如き形態の繭を切望することゝなさゝるべからず

何が故に予が斯く支那種を賞揚するか曰く繭の作り方甚だ平等なること其主なる點なり獨り支那種に限るに非ず如何なる系統のものにもせよ繭に在りては左の條件を備へたる形態を以て可なりとす

一　中央の「クビレ」(胴締、腰、緊括等と云ふ)なきもの或はありとも其深からざるもの或は繭の長形なる場合に高低の角度急ならざるもの

二　兩極(俵口又は「トメ」等と云ふ)尖らざるもの或は尖る傾き少きもの

三　「チヾミ」(「シボ」又は縮皺等と云ふ)縮緬形をなし密に過ぎざるもの

此他色澤絲力等事ゝしく論ぜず

予は何が故に右等の條件を擧げたるか下に少しく説明すべし

輪類の如きは他の事情を攝き繭の形態のみに就て論ずるときは第一に起るの數の多き局處を「ク、リ」となし之に次ぐを尖りに傾きたる或は狹き兩極（鰌日と稱するもの）とし然らざる兩極及び兩極と「ク、リ」との間即ち胴と稱する兩半圈は輪類は至て少きものゝ如し是れ予が聊か調査せし所の説にして案外にも兩極に輪類の起ることは予が今春繭の構造研究中偶然發見したる新事實なり爾後種々の實驗は愈〻此の事實を確むることを得たり（繰絲試驗の方法に於て辱知農學士福原鐵之輔君、大島貫太郎君が嘗て用ひられたる繭の局部染色法を行ひて大に此實驗を捗らしめたり玆に謹で兩君に謝す）

兩半圈部にも輪類の起る場合あれども概して少しとし最も多きは先蕚の唱へらるゝ如く中央の「ク、リ」の著るしきものに在り（兩極の輪類は他部に於ける輪類よりは小なるを常とす之を二者の特徴とす）

之を要するに蠶蟲が結繭の際絲を掛くるに最も困難なる場所は他部と平等齊整に絲を掛けられず概して言へば極の豐圓ならざる繭は其極の絲の掛け方濟き所を生じ「ク、リ」の締りしは絲の掛け方密なり今假に斯の如き繭を煮るとせんに先づ早く灰色となる所は兩極にして次は兩半圈部、次は中央部とす即ち疎なるもの密なるもの換言すれば過きたる所と及ばざる所とは輪類の起り易き所たるなり今楕圓形の繭なるときは此過不及の所なく遍く一樣に絲は掛けられ居るを以て繭の絲の着き方、乾き方、繭の煮え方、引かれ方等總て軽軽少し是れ解舒佳良にして輪類少き以所なりとす（解舒と輪類とは必ずしも相伴ふものにあらざれども）

尤も兩極に起る輪類は中央部の「ク、リ」程には多からざるを常とすれども是は多からざるは當然にして兩極の面積を繭の全面積に對比すれば極めて少なければなり（容量より割出せば容易に面積を算出し得べし）此僅少の處も亦害の起り易き所たるを忘るべからず

併し輪類の最も多く起るは中央部なり故に今何故に繭の中央に「ク、リ」を生ずるかを説明せん

「ク、リ」は蠶蟲の絲の掛け方に由て之を生じ或は生ぜず即ち蠶蟲は如何なる品種にても最初の濟き一層は疎に遍く楕圓形を作れども次に至り中央を境界として少しの餘地を殘し一半圈宛絲を掛くるを「ク、リ」ある品種の通性とす而して此場合中央部附近は幾分か狹きより且つ蠶躰の重みと其の搾壓とによりて濟層部に折襞を生ずるを常とす此折襞の凹みたる所は所謂帶となり折れ上がりて帶二本を生じ二本の間に浮くもの等を生ずる場所もあり斯くて夫れより後に及びては中央の濟きに氣付くものと見へて半圈より中央部には兩半圈に掛くると同時に無間に此處に絲を吐き最後には又半圈に絲を吐くを以て日本種の通性とす

是は蠶蟲が結繭のとき注意して觀る時は直に了解すべきなり即ち「ク、リ」の淺き種類は初め中央部に濟き層を作ること少く（或は稀にありとも兩側よく埋め合せ）「ク、リ」なき種類は更に濟き層なくして前後左右上下可成平等に絲を掛くるものなり

夫れ斯の如く「ク、リ」は上層に起る事情なるを同く繭の「チヾラ」も上層に起るものにして鬼縮の如き極めて疎なる「チヾラ」のものを除く外は下層の上層に及ぼす影響極めて薄し即ち「チヾラ」は繭の極最初の層は「フワ〳〵」として軟き等より次層の絲に引締められ或は凹凸の儘掛けらるゝより起るを普通

とす即ち此の「フタ〳〵」こと「チヤラ」の起る根元なり

「チヤラ」の荒きものは密なるものよりは絲の細きを普通とす是も亦理由の存するものあるなり

予は是等の細説に至ては聊か調査せる所ありて面白きことも少からずと雖も遠からず製絲叢書第一卷脱稿出版の日を待て詳に廣く大方に問はんとするの志あれば同書に讓りて今さのみは茲に述べず讀者乞ふ同書の出るを待て幸に叱正を與へんことを

寄書

●蠶絲業に關する意見（承前）

本年の蠶業　　八田達也

前段には日本蠶業の革命と云ふ大問題の下に卑見を述べたるものにて尚ほ引續き一言せんとするものは本年の蠶業に就ての卑見なり本年も已に雨水の候となり清明穀雨の候も亦近邇し蠶種孵化の季節は實に二ヶ月を餘すのみ蠶業に從事するもの彌々其準備に忙はしく又好望の時季に近づき來れり故に此際豫め本年の蠶業に就て所思を述ぶるも敢て無用にあらざるべし

余は本年の蠶業は大に豊饒なれ滿作なれと謂るものなり然れども細かに諸種の關係を想察せば余が胸間に喜憂交々至るを覺ゆ其一憂を述れば昨年冬季來の氣象を以て將來を推すときは本年も亦昨年に均しく彼の最も恐るべき晩霜の害は多少免れざるべく甲府測候所は常に之れが觀測に意を注げる結果主任者は頗る憂慮し居れり蠶業家諸氏須らく豫防の策を講ずべきなり若し夫れ霜害は天爲なり人爲の救ふべからざるものと空想し彼れが暴威を逞ふするに放任せんか余は想ふ去年他府縣頑迷者流が被むりたる慘劇を自身に演るずの不幸を見るに至らんことを去年は幸に本縣獨り被害を免れ爲に直接には蠶兒を河流に投ずるの慘劇を演せず間接には豫想外に蠶種の販路を擴張せしことを記憶すべし若しも今日に於て之れが豫防の策を講ぜざれば折角開けたる販路を幸に得たる信用とは霜露と一般消滅せしむるに至るべきなり

尚ほ杞憂の一問題たるものあり本年生絲相場の昂低は今より豫想し難きは言ふ迄もなく或は幸に需用多かるべく或は爲替相場の影響等より生絲家が豫想外の利益を得ることもあらん然れども還は未來の想像に屬せる問題なり今眼前に於て蠶業家が直接の關係を有せる製絲家の内幕を窺ふに去年生絲貿易の不活潑なりし爲めか否らざるかは知らざれども生絲の先物取引即ち綱売町の米商と一般なる商法大に流行し爲めに生絲家中大失敗を招きたる人ありと聞く夫れかあらぬか現に廢業せし人あり又表面敢て變らざるも資本の半を失ひたる人も亦多かるべしと斯る忌はしき歎聲は獨り我山梨縣のみに止まらず隣府縣尚ほ甚しきが如しと果して事實なりとせば養蠶家たるもの須らく熟慮反省すべき秋なりと信ず此年にして若し平年の思想を以て蠶種を拵立る等は特に危險無謀の事にして或は不測の損害を招く虞なからんか杞憂の餘り一言以て猛省を煩はす

前説は余が杞憂に過ぎずと雖ども各種の事實を綜合して推想を下す時は本年は恐らく從前の如く滿收穫の際各製絲家競買の爲め一時高價に賣拔の僥倖は得難かるべく却て生繭相場の沈靜なるは免るべからざらんか果して如此實勢を現はすものとすれば養蠶家たるもの豫め此の變に處するの覺悟なかるべからず

即ち此變に處するの策としては余が多年稱導せる共同殺蛹所及貯繭所の設定是なり抑も日本繭の種類不良なる（皺形にて節多き類）は別問題として收穫當時色澤の艶麗なるにも拘はらず盛夏の候を過ぐれば著しく色澤變褪し秋となり冬となるに至ては殆ど別種のもの、如き觀を呈し隨て解舒の甚しく困

難を增すは既往の實蹟に徵して明なり其れをしも蠶絲業家は蠶繭の特性なるが如く誤認し敢て改良の途なきものとして放任せるものゝ如し歐米生絲の需用者が日本生絲の四季各其色澤を異にし商標所謂銘柄に信用を措く克はずとなし痛く撞斥せらるゝも畢竟殺蛹と貯繭とを製絲家の擔任に歸せしむるに起因す甚だ惡慣例と謂ふべく養蠶家の不利これより甚しきものなし若し養蠶家自身が此事をなすに於ては第一殺蛹の時期を惹らず又貯繭の注意適切を得べく隨て固有の色澤を保たしめ解舒亦困難を增すの憂なきも生繭にて製絲家に賣渡すときは製絲家に於ては一時に多數の生繭輻湊するが爲め自然殺蛹の時期を誤り又貯繭法の完全を缺くは勢ひ免れざるが故に知らず識らず繭の價格を墜落せしむるに至る還は眼前の不利にして尙甚しきは一ケ月の後若くは二三ケ月の後に至り價格騰貴すべき先見を有するも持堪ふること能はず勢ひ安價に賣却せざるべからざるの憾あり是等は一般蠶業家の大不利益なるものと謂ふべし平年に在りても養蠶家が共同して殺蛹及貯繭をなし時期を俟ち賣却することは直接には養蠶家の利益にして間接には日本生絲に大利益を與ふるや疑ひなし況んや本年の如き繭の買方即ち製絲家の氣勢大に挫折せる年に於ては最も必要なりとす養蠶家は速に共同貯繭の法を講ぜざるべきなり然れども多數養蠶家中資本の多少資力の厚薄あるは固より當然の事なれば强ち各自貯繭するにも及ばざるべく宜しく土地の資產家に於て合資會社若くは株式會社を設立し殺蛹及貯繭の依賴に應ずるの方途を開き一面には養蠶家に金融の便を與へ會社は手數料と利子とを收め以て資本運用の効を完ふすべく斯くして金融の途を開かば普通銀行者從つて活動すべく農工銀行の効用著しかるべく又製絲家は多額の資本を要せずして隨時原料を得るの便利あり且つ四季の色澤に異同ある生絲を製出して海外需用者の撞斥を招くの憂を排除し其利益最も多かるべきを信ず庶幾くは各地に於て遺漏會社の計畫あらんことを

序に一言するものあり蠶種貯藏の事是なり冬季蠶種を密閉貯藏するの必要は今更言ふの要なし泰西の學者某は蠶種の冬團を以て養蠶飼育中の注意と相匹敵すと言はれたり實に然り蠶種の冬團を等閑に付し爲めに不時の發生を兆し不測の失敗を招きたること其例に乏しからず故に前說と同時に共同貯藏場を設け蠶種の衛生を圖るべし是等は町又は郡市農會の事業となすを最も得策と思考す聞く西山梨郡住吉村農會は第一著の事業として此共同貯種場を設くる事を議決せりと實に美擧と謂ふべきなり以上は迂生が本年蠶業に就ての杞憂なり之より轉じて本年の蠶業上大に望を屬すべき事を述ぶべし本縣の蠶種が近年漸く他府縣に信用を得年々販賣の高を增し殊に去年著しく增加せしものは或は本縣獨り霜害を免れたりしもの與りて大に力あるべしと雖も尙ほ他に一因の存するものあり他なし幸ひ需用地の蠶業が近年大に進歩せしを以て蠶種の優劣を比較取捨するの餘意なるに因るべし果して然らば本年飼育の結果に於て去年霜害地の不良蠶種と無害なる本縣の蠶種とを比較せば尙は一層の好評を博し本年蠶種の需用は昨年に倍蓰するとは疑ひなきを信ず此一大好機は前途に橫はり之を收めて自他を益するとと之を捨てゝ他縣人の手に委するは偏に製種家其人の所爲如何に歸す製種家たる者一時の奇利に眩惑して粗製を是事とする如きことあらば折角本縣に向つて進み來りたる好機は忽ち他に轉じ一たび得たる幸福は黃粱一炊の夢に化せんのみ製種家諸氏須らく一層の精撰を力め需用者の信用を鞏固にし此好機を失せずと全國蠶業界の全權を握るの決心肝要ならん

次で一言せんとするものあり本年は栃木縣足利町に於て東京府外六縣聯合繭絲織物共進會の開設あり此の一府六縣は東京群馬栃木茨城福島長野及我山梨縣にして全國中先進地方を以て推重せらる地方の競爭なり此會に於て全勝を制せんか優に全國蠶絲界の覇權を掌握したるに異ならず其人々の名譽は言ふ迄もなく本縣の名譽之より一段の光輝を放たん思ふて爰に至れば此共進會は實に大切なる天下分目の競爭場たるを覺悟すべきなり而して此の戰場に必勝を期せんとせば宜しく今より作戰計畫を爲さゝるべからず否寧ろ時季已に後れたるの憾あり他なし先きに蠶業の革命と題し蠶繭種類の得失に就て述

べたるが如く從來の蛾形の繭は纖維に類節に將た解舒に極めて缺點多くして角又若くは支那種良好なりと確定せる以上は成るべく角又等の種紙を採擇飼育して出品すること肝要なりと雖ども今俄に此種の蠶種を得るに難からん若し今にして該蠶種を採擇する克はず止むを得ずして在來種を出品せんとするも良白の如き中央の括れ目深きものとのりは小石丸等を撰むべく小石丸よりは寧ろ又昔の括れ目淺きものを撰むこと作戰上の得策なるを信ず苟も此方針を以て繭は勿論生絲も原料を之に撰み織物も原料を之に採り大畢交戰せんか全勝を博すること敢て難からざるべし當業者請ふ一考を煩されんことを

終に臨んで一言するものあり昔日の長野縣は蠶絲を以て全國に冠たるも近年後進の府縣漸く頭角を現すの實跡あるや同縣人は大に警戒する所あり全國に卒先して縣郡に蠶業學校を設け後進者の養成に力むると共に諸種の試驗を行ひ斯業の改良發達を圖りて尚ほ足れりとせず基學校に托する に微粒子病毒試驗の事を以てし之れが經費の內、巨額の金員を寄附せりと又群馬縣の某々等は本年五月を期し支那に渡航して養蠶製絲の實況を調査し以て自縣蠶絲業改良の資に供し併せて全國に其模範を示し自縣の名譽を高むると共に縣の福利を增進せしめんとし其計畫既に熟せりと長野群馬等の當業者が熱誠自縣の名譽偏利を進めんと努むること如斯知らず我山梨の蠶絲業者は此時に際し如何なる考案かある元龜天正群雄割據の時に當り常に機先を制して人後に墜ちざりし甲州男兒此蠶業革命の時機に際し神機妙算以て機先を制し蠶業界に雄飛するの壯圖あるや否を

（完）

●秋蠶業（承前）

秋蠶種購求法

大日本蠶絲會員　島羽久吾

二出蠶種は產卵後僅々の時日にて發生し其良否を區別するの日子も亦甚だ僅少にして殊に遼隔の地に輸送するには其運搬の時日にさへ忙しき程なるを以て到底精細なる檢査を行ひ病毒の有無を分つを得ず不完全ながら肉眼の鑑定に由り之を撰別するあるのみ斯の如くにして得たる蠶種は良好の結果を奏し得るや甚だ疑はざるを得ず假令種面は善良にして產着强くとも之に因て虛弱性の遺傳を判すべきに非ず又蠶種商は健全の蠶種なりと云ひ無害なりと稱するも元來利のみ是れ主とする商人の慣言なるが故に之を信じて購ふべきに非ず殊に世に所謂蠶種仲買商なる者は製種者と飼育家との中間に立ち寄利を貪る者にして投機的冒險者に非れば定產なき小商人のみ需供兩者の中間に立て誠實に兩者の便益を計り永年の信用を博する如き者は幾ど稀なり其初め一二年は善良の蠶種を賣買するも少しく信用を得るや一時に巨利を貪らんと欲して終には不良の蠶種を安價に購ひ以て飼育家に賣付くるを常とす斯の如く目下行はるゝ所の蠶種購入の方法は甚だ缺點多し世人が秋蠶業を危險なりとして恐るゝは其故なきに非ざるなり、然らば如何にして之を匡救せんとするや自ら產地に往て確實なる蠶種を購入するは安全なりと雖も僅々一二枚の飼育家には實際行はれざる所とす假令之を爲し得る者とするも秋蠶種の撰定は前述の如く一の標準とする顯微鏡檢査を缺き加ふるに之を奇貨として奸商等の粗製種を濫造し有名家の僞印を捺し販賣する者あり又自ら製種者を問ひ實況を檢するも蠶種製造の期に際し僅かに其繭を評し蛾を檢する位の事にては其繭の果して自家の飼育産るや否やをも知ること能はず況んや其性質を知り之より發する蛾の强弱及病毒の有無に於けるをや歸する所は多くの資を費して却て不良の蠶種を購入するの不幸に終るべし故に健全の蠶種を求めんと欲せば同志者の團躰を作るにあるのみ即ち近時或地方に行はれつゝある產種共同購入の方法是れなり此組合たる大なれば從て費用を節することを得ると雖も一時の流行により壯大を致せる者は或は意見の衝突を來し十分なる効果を見るに至らずして終ることあり故に其初め除り大ならんよりは先づ朝夕相會する熱心家の結合に止まるべし已に團結することを得ば誠實にして斯業に經驗ある者を撰び原產地へ派遣して健强其地に適する所の蠶種を撰定して購入することを一任すべし此責に當りし者は先づ其原種の適否より飼育法の良否は勿論尙ほ

繭蛹を檢査して其意に慊ふ者なれば手合金を附し確く契約するを要す原種の適否を定むるに二樣あり一は性質の强健を主とする者にして養蠶未熟の地若くは氣候不順により年々失敗する地方に在ては飼育の容易なる者即ち繭質上等ならざるも蠶性强壯なる者を撰ぶを宜しとす一は之に反して性質餘り强壯ならざるも注意して飼育せば優等の繭を得る者にして年々秋蠶種を飼育し好果を奏する地方に在ては此種を撰ぶを宜しとす現今我地方に於て盛に製造する種類は白龍、龍馬なり其他種々異名の者ありと雖も大同小異彼我の掛け合せたる者に過ぎざるべし龍馬は前者に比し飼育容易にして蠶業幼稚の地に適し白龍は飼育稍〻難しと雖も一般養蠶家に適する其種なり次に卵殼を檢すべし無毒の證明ある者のみなるや否や其發生宜しかりしや否や及其揃立量に比し蠶兒の多寡等を比較し以て其原種の健全なるや否やを檢定すべし飼育法の良否に就ては春蠶飼育とは稍〻其趣を異にする者あるも其蠶兒の齊一にして肉堅く躍動活潑にして飼育日數少くも二十七八日を要せし者を宜しとす二十日乃至二十二三日にして上簇する者は蠶種に適せず繭は上簇中に於て檢するを宜しとす即ち其斃蠶多きや否や及滿繭同功繭の多寡等を檢する者にして其歩合少なき者は健全に近き者とす尤も如何に上等の蠶と雖も幾分か下等繭を混ずる者なれば收繭の際宜しく區別して製種に供せざることを約すべし種繭は形狀縮皺均一にして固有の繭質を有する者を宜しとす蛹の强弱を檢するは蛾に近き程正確なる者なり先づ之に指頭を觸れて其死せるや否やを檢し其之に感ずる最も敏捷にして活潑なるを宜しとす蛹は七八日頃に至れば漸れも褐色を呈する者なれども若し全日上簇の蛹にして其色に濃淡あるときは蠶種の混雜せるか又は熟蠶拾ひ取りの不完全なる者と見て可なるべし其他翅部の黑褐色なる者腹部に小斑點を表する者は有毒の者と見て可なるべし購種豫約を爲すに當ては雌雄配合の適否より寄蛾繭の多寡等により全躰製種額の大略を積算し置くも要用なりとす已に契約の後は製種家の内に滯在して製種上の注意蠶卵の保護を勉むべし尤も製種者にして熱心改良を計るなれば斯く迄注意せざるも萬般に向つて決して粗忽なきものなれども製種中は極めて多忙なるものなれば滯在して自ら注意するの安全なるに如かざるなり

秋蠶種の運搬

午熱人を蒸して珠汗泉の如く金石猶ほ熔解せんとするの時に當て外來の刺戟を受くる最も劇しき蠶種而も其保護の如何は損益の決する所の蠶種をして粗忽の取扱を爲すが如きは心ある者の豈爲し得る所ならんや然るに憎むべきは私利のみ是れ貪ぼる奸商輩なり其孵化速なるを恐れ產卵後僅に一二日其内容未だ定まらざるに早や已に運搬を試むる慘酷なる商人あり或は蠶種の缺亡價格の變動を機として多數の荷造を爲し雜貨物を運搬するが如き投機的商人あり或は催青種若くは粗製の蠶種を廉價に購ひ日夜馳驅奔走して其實口を求め低身平頭只管飼育家の歡心を得んと欲して巧辯利口嘯着を逞らする狡猾商人あり斯る鼠輩の非業一々擧げて言ふに忍びざる者あり斯る有樣なれば假令其蠶種は有名家の製造に係ると雖も決して健全を保す可らざるなり此の如きは畢竟我邦蠶業の幼稚なるを示す者にして飼育家の注意到らざるより起る者なれば前述の蠶種共同購入の方法を用ひ運搬は早くとも三日目より爲し成るべくは四五日を經たる後鄭重に荷造りを爲し日中の炎熱は之を避けて日沒より翌朝七八時迄を限りとし休息中は其外圍を解きて清涼の空氣を供すべし尤も曇天無風の日には終日往くも差支なしと雖も暴風雨天等の時の如きは寧ろ往かざるを宜しとす若し時日にして許さいる塲合には風雨を防ぐに足るべき藏を爲すべし賣捌きは遲くとも目附迄即ち七八日頃迄には飼育家に渡すべし蠶種は外見微小にして之を如何にするも差支なしと思ふ人あれども卵面には無數の氣孔ありて常に呼吸を營む者なり況や二出蠶の如き僅小の時日にして發生する者に至ては其呼吸も亦從て頻繁にして孵化の準備に營々たる者なれば常に新鮮なる空氣を供給し炎熱惡臭烟氣等に觸れしむべからず殊に動搖は直接に害ある者にして甚しければ蠶兒發生せざることあり是を以て荷造法は卵面を內側にして之れを卷き中心を紙に

て結び桐箱又は竹籠に入れ若くは種掃（五十枚より百枚を平に一二寸距離に差込む物）を用ふるを宜しとす唯其外圍は成るべく丈夫重にし蓆にて二重より三重に卷き外氣を直接に受けざるの裝置を爲し堅縄にて東ね棒にて荷擔するを要す是れ最も動搖少くして安全なる法なりとす人力車等には成るべく乘ちざるを宜しとす殊に險惡の地に於て然りとす滋車に乘る際には注意して他物と混じ壓迫せざる樣にすべし近來郵便を以て蠶種を運搬すること行はるれども一得一失にして僅に一二枚の蠶種には輕便の法なりとするも多數の蠶種には到底行はれざる所にして若し之を完全に行はんには多くの手數と費用とを要し且つ如何に完全にするも郵送の際は配達夫の不注意等よりして意外の失敗を招くことを免れざるべし

掃立の準備

蠶種を購入する以前に當て豫め掃立室を撰定すべし蠶室の構造如何に由て蠶兒の發育に遲速あり又其衛生に適否あるは世人の明知する所なり然るに外來の刺戟を感ずる最も鋭敏なる種蠶の飼育に供する掃立室に至ては往々之を輕視する者あるは吾人の甚だ遺憾とする所なり抑も秋蠶發生の期たる恰も極暑の候に當り常に炎熱に苦むの時なるを以て成るべく通氣自在にして清涼なる室を宜しとす即ち居宅なれば北部の室にて涼風の來る方向に窓戸を設け東方は障子にて旭日を受け南方は一室を隔てゝ光線を受け西方は樹蔭若くは厚壁にて夕陽を避くる如き室を宜しとす室は掃立前に大掃除を行ひ蠶籠蠶架其他の蠶具總て清水にて能く洗淨し乾燥して豫め備へ置くべし然るに地方により春蠶飼育後少しも蠶室蠶具を洗淨せず甚しきに至ては蠶架を結び立てたるまゝにて秋蠶の發生を待つ者あり此の如くして好果を收めんと欲するは猶ほ木に緣て魚を求むるの類にして失敗を招くの一因なり元來空氣には幾多の微菌常に浮游して之を導く者あれば直に之に附着し更に他に寄生し繁殖する者なるを以て假令春蠶は健全の者なりしとするも蠶養蠶沙塵埃等の中には是等浮游物の付着する者ありて遂には蠶兒に寄生

するに至るべし況や先の春蠶にして造作の者たちんか其病毒は忽ち傳染して慘害を呈するに至るべきをや故に斯る室に於て再び掃立ざるを得ざる場合には亞硫酸瓦斯を熏蒸して消毒を行ふべし礦質の量は平素に倍し百目より百二十目位を用ひ（平屋一坪に附き）二十時間を經て開放し再び掃除を行ひ洗淨する等の注意あるべし元來春蠶飼育家の秋蠶に失敗する者多きは全く是等の清潔法を缺くに基く者にして爲に年々幾回かの養蠶は不可なりと稱する者あるに至る尤も夏秋の候に在ては病害の繁殖も之を春蠶期に比し甚だ速かなるを以て此點に於ては秋蠶は春蠶より困難なる者なりとす秋蠶種を掃立んとする一日前即ち翌正午頃に掃立を爲さんとする者は其日の午後六時頃桑園中最も發育の宜しき桑樹の頭芽の帙葉一二片宛を摘採し置き掃立桑に供すべし若し此準備なく掃立に先ちて摘葉し間もなく給桑するは宜しからず其他蠶具の手入等其期に臨み不都合なき樣前以て整へ置くを宜しとす（未完）

高橋先生に感謝し併せて同業者諸君に徽旨の在る所を諗ぐ

大日本蠶絲會員　市瀬善治

類は本邦產生絲に最も多き缺點にしてこれあるが爲めに外國市場に聲價を墜しこれあるが爲めに機業家の擯斥する所となる是に於て乎當業者たる製絲家及養蠶家は勿論斯業に關係無き人民すら愼嘆して措かずと雖も未だ改良の成績を見るに至らず我蠶業界の恨事堂しこれより大なるもの莫けむ然るに大日本蠶絲會技藝委員なる高橋先生が大日本農會の大集會に於て演說されたる類の說を余は再三再四熟讀せるに親切懇到復た餘蘊なし流石は製絲業界の泰斗たる高說卓論と感服の外なかりしも唯だ蠶の飼育上より來るべき原因結果の說明を省かれしは養蠶家に取りては聊か憾みなき能はざるを以て更に其の說明を求めたるに先生の坦懷雅量は余輩の言を納れ十分の說明を與へられたり爲めに余輩養蠶家をして津頭舟筏を得るの思ひあらしむ實に謝する所を知らず欣然の餘り之を大日本蠶絲會に寄送せしに

亦幸に余の微意を納れ其紙上を割愛して本會報第六拾壹號に掲載せられたり思ふに天下多數の同業者諸君之を熟讀し之を實踐して効果を收むることを得ば國家の福利を增進するや少小にあらずして先生の賜たる實に大なりと因りて高橋先生に感謝し併せて同業者諸君に微旨の在る所を諗ぐ

●問　答

●蠶種檢査其他に就き質問

大日本蠶絲會員　大岩芳太郎

(一)蠶種を檢査し病毒の歩合を定むるに當り其檢する所の卵粒の數は即ち分母の標準となるべき理なるに無定數の卵粒を以て檢するもの多きが如し正確の歩合を知るに敢て差支なきものなるや

(二)微粒子は地中又は水中に於て何程の生存力を有するものなるや

答

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　石渡繁胤

(一)蠶卵を檢査するに五十粒を取り其各五粒を共に磨潰したるものを一鏡面とし一鏡面に微粒子を認めたるときは其内の一粒に微粒子の存したるものとなし之れを百分率となし鏡面の數に二を乘じて病毒二分となすものなり今一鏡面内に取る卵粒の數は多數なるも其蠶卵紙に對する病毒の歩合を定むるには敢て差支なかるべし即ち卵粒を多數に取りたる場合にても尚ほ其卵粒中の一粒に微粒子の存するものと見做すなり

(二)微粒子の地中水中に於ける生存力は試驗なきを以て詳ならず

●赤色蠶兒に就き質問

大日本蠶絲會員　林一郎

赤色蠶兒を生ずるの原因は何に由るものか蠶種の性質なるか又は貯藏の過失なるか將た催青の時温度の過失なるか且又其蠶兒を飼育せば其結果如何

答

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　月田藤三郎

蠶兒には間々變色のものを生ずることあり一蛾の産卵にして其幾分は他の蠶兒と躰色を異にすることあるは屢々見る所なり即ち赤色蠶の如き其一種にして原因未だ明かならずと雖も蠶種の浸水を行ふとき長時日間水中にありしもの若くは躰温孵化法を行ひしもの等には斯の如き赤色蠶を生ずること多きを以て見れば主として貯藏中に於ける空氣供給の適否に起因するものゝ如し質問者は右の蠶種は他と同樣の貯藏法を施こしたるものなりと云ふも蠶種は貯藏器中に於ける位置其他の事情の相異なるに從ひ發生に不同を來すこと敢て珍らしからざるものなれば同所に貯藏せしものゝ中に他と異なれる蠶を混生することあるも怪しむに足らず但し總て生物は世代を累ぬる間に於て變性のものを生ずることあるが故に此理に由りて赤色蠶を生ずることもある可く又蠶蛾の撰擇を誤りたるに原因することもある可し爾く其原因一ならざるが故に赤色蠶を繼へたる蠶兒を飼育したる結果の眞否は明答し難し

●蠶兒と炭酸瓦斯の關係に就き質問

大日本蠶絲會員　八木秀太郎

(一)炭酸瓦斯は蠶兒に害ありと聞く果して害ありとすれば蠶兒に如何なる狀を現はすや理學上蠶兒に害ある說明を乞ふ

(二)蠶室内の乾濕は乾濕計にて知ることを得れども室内に於ける炭酸瓦斯の蠶兒に害ある所の度合を知ることを能はず故に瓦斯の有無を知り得るには如何なる方法ありや

答

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　河原次郎

(一)蠶兒若し炭酸瓦斯に中毒するときは頭部を左右に打ち振り黃色の液汁を吐出して斃る是れ消化器前部の細胞を壞敗し且血液の運行を停止せしむるに因る

(二)炭酸瓦斯の有無を檢するには生石灰を水に溶かして舶來の濾紙にて濾過し其清澄せる液を取り玻璃製の碗に容れ置き時を經るに從ひ汚濁して乳狀を呈すれば炭酸瓦斯の存在する確證なれども通常の

空氣には必ず之を含有するものにして或る分量を超えざる間は人體又は蠶兒を害することなし其制限量は技藝委員辻農學士等研究中にして又精密に空氣中に存在する量を測定する法は實地の傳授に非れば了解するを能はざるを以て茲に説明せざれども東京市京橋區南傳馬町有隣堂より發賣する蠶事報告第十三號に詳記あれば參看すべし

●最も完全なる殺蛹法及貯藏法(少量の繭)に就き質問

大日本蠶絲會技藝委員　鳥羽久吾

品評會等に出品する繭は如何に殺蛹貯藏して可なるや其之を誤るより假令良繭と雖も受賞に預からざる者多し是れ惟り出品者のみならず品評會の目的よりするも甚だ遺憾とする所に付き最も輕便にして完全なる殺蛹法あらば教示を乞ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　八田達也

殺蛹法に陽殺、燥殺、蒸殺、熏蒸殺、熱殺等の數法ありと雖も孰れも多少の缺點あり余の實驗に據り完全なる方法としては蒸燥殺なりと信ず今茲に同法施行に要する器械の簡便なる構造を示さんに其器は高さ五尺横三尺五寸方のものにして高さ二尺五寸以上の處は總て紙を張り以下は木板を以て之を作る而して張紙は可成厚きを宜とす是れ紙は板と異にして繭より發散する水分を吸收すること多きを以てなり而して此の器の内には八個の蒸籠を容るゝの裝置をなし之に寒暖計を挿入して爐上に安置し炭火を覆ふに灰を以てし火上に鐵瓶又は鍋の如きものに水を盛り百七八十度の温度を目的として之を殺すなり殺蛹の際水分を與ふるの理由は蠶繭俄に激烈なる火力に遇ふときは誤質固着して解舒の困難を來すの恐あるを以てなり殺蛹一回の量は八斗にして之を殺すに要する時間は三時三十分餘而して繭を容るゝの後爐中にある鐵瓶を除去するのときは即ち蛹の死するときにして豫て挿入したる檢温器に水分蒸發付着して寒暖計を濕し其度を認め得ざるに至るのときにあり又其器の上部には大小五個の穴ありて其中央の大なる穴には同功繭を入れ置き蛹の生死を檢するの標準に資し其他四個の小孔は水分を發散せしむるの用に供す水分過度に失せば繭の光澤を損するを以て なり斯く殺蛹したる後繭の良否を撰り別け之を乾燥せしめざるべからず之を二番掛と稱して殺蛹の時より十日許を經百二三十度前後の熱度を以て之を熱し繭層及蛹内に含める水分を乾燥せしむべし然るときは蛹の膜部陷落して變形をなす俗に之を達摩蛹と云ふ此の如く蛹の縮少して乾燥せしときを度とし貯藏すべし此二番掛を行ふには尤も温度に注意を要す若し火力強きに過ぐるときは絲質を損ひ又其温度低きときは長時間を要するのみならず薪炭に人夫に多領の入費を要し其結果も亦劣等なれば絲質を損せざる限は高温度を以てすべし而して貯藏には罐詰法を最も優るものとす其取扱法は先づ其罐を熱し罐内の空氣を稀薄ならしめ之に繭を入れ密閉して貯ふ然るときは光澤解舒共に良好にして能く貯藏に耐へ且つ空氣に直觸せざるを以て濕氣を吸收することなく最も簡便にして且つ完全なる貯藏法なり

●繰絲接緒に就き質問

大日本蠶絲會員　堀幾太郎

(一)繰絲接緒は本邦に多く行なはれ居る投附(即ち指頭にては粗附けること)て添足すると接緒器にてなすと類節何れが少なくして絲質優れるや

(二)本邦に完全なる接緒器製造の販賣所あるや又は舶來ならでは之れなきや

答　大日本蠶絲會技藝委員　高橋信貞

(一)投げ付即ち指頭にて添足すると接緒器を用ふるとの得失に就きては當業者間に說の流布するや久し然れども之を實驗に徵するに指頭の活機運用は能く絲條の細太を感知し緩度を揃ふるに妙あり器械の及ぶ所にあらず然れども其技の拙なきものに比すれば器械の働き一樣なるが爲め勝れる所あるを見る要するに類節の多寡は技術者其者の巧拙及注意の厚薄に由るものなれば茲に斷定し難しと雖も接緒器の精巧なるものを用ひて注意の周到なりしものは類節の多きを見出さゝるなり又絲質の全軟

に於けるも差異なきものとす

(二)東京小石川區戸崎町九十四番地御法川直三郎氏新案の接緒器あり其他同京橋區具足町九番地川口屋佐山三郎兵衛氏舶來撲造の接緒器を販賣せり共に用ふるに足る實驗せらるべし

大日本蠶絲會技藝委員　毛呂正容
大日本蠶絲會員　飯沼兵平

●蠶俎に就き質問

樣の板を以て製したる俎は蠶俎として害なきものなるや

答

大日本蠶絲會技藝委員　毛呂正容

樣の板を以て桑俎を製するも其害あるを見ざるものゝ如く該木板たるや破目を生ずる等のこと稀なれば器其物に取りて益あり

尙ほ樣板の蠶兒に害なきことは上州地方に於ては樣の木製の桑盆を使用する處あるを參考しても之を知るべし

●馬尾蜂に就き質問

大日本蠶絲會員　鳥羽久吾

前日桑圃に於て尺蠖の馬尾蜂に寄生せられしものを實見せるに一頭に付き少きも四五頭多きは十數頭に及ぶものあり之を瓶中に貯へ置きしに其後盡く發蛾して飛散せり嘗て聞く所に據れば蠶蛆等の蠶兒に寄生する優勝劣敗の結果多くは一頭にして二頭のものは稀れに見る所なりと然るに馬尾蜂は何故に斯く多く尺蠖の全身に寄生し發育するを得るや又若し其寄生する桑葉に產卵し之を食するより起るものとせば或は蠶兒にも害を及ぼすものにはあらざるか

答

大日本蠶絲會技藝會員　八田達也

蠶兒の蠶蛆に侵害せらるゝは蠶兒が蠶卵の桑葉に附着せるものを葉と共に嚥下し躰內に於て孵化發育を遂ぐるものにして終生數顆の卵を嚥下すべしと雖も其嚥下と孵化とは必ず幾分か前後の差あるべし即ち優勝劣敗の結果前者は後者の發育を妨げ遂に先優一顆の全勝に歸するものゝ如し馬尾蜂に至りては直接同時に蟲躰の要部に卵を注入するに由り亦自ら同時に孵化發育すべきを以て其注入せられたる卵は悉く發蛾するものと思考す此の馬尾蜂は草木の枝葉に放卵せざるを以て食桑より蠶兒に寄生する道理なし

正誤　會報第六拾貳號本欄三十頁九行、鈴色は銷色、三十一頁二行計るに、よりはのりの誤も誤

●統計

●三十年六月中生絲屑物類輸出數量元價收稅統計

（大日本外國貿易月表に據る）

種目	數量	元價	收稅
生絲	一九五、〇六七斤	一、四七五、〇六〇・九五〇円	四六、〇八四・八八三
熨斗絲	二九、八五一斤	二四、九一四・七九〇	七〇五・二三九
屑絲	九〇、九七三斤	五八、〇七二・七一〇	六四四・七七九
計	三一五、八九一斤	一、五五八、〇四八・四五〇	四七、四三四・九〇一

●三十年六月中絹物類輸出數量元價統計

（同上）

種目	數量	元價
縮緬	八二反	七五二・六〇〇円
羽二重	三六、二六八反	五四二、四四三・八三〇

他の諸絹布類	一、九八五反	一一、四九四・九一〇
絹綿布類	一七一反	九九六・六二〇
絹布手巾	一〇七、六七三打	三二五、一一九・〇四〇
絹製品類	三八、五六〇反	六九、三七二・八三〇
計	一〇七、六七三打	九五〇、一七九・八三〇

●三十年七月中生絲屑物類輸出數量元價收稅統計（同上）

種目	數量	元價	收稅
生絲	一九九、五七二斤	一、六三八、八四六・二一〇円	四七、一四八・九一五円
熨斗絲	八、一〇〇斤	四、五五〇・〇〇〇	一九一・三六二
屑絲	一四一、七一五斤	六六、三六二・四五〇	一、〇〇四・四一〇
繭	七五三斤	一、三五五・四〇〇	二八・四六三
眞綿	四斤	一四・〇〇〇	二七七
計	三五〇、一四四斤	一、七一一、二二八・〇六〇	四八、三七三・四二七

●三十年七月中絹物類輸出數量元價統計（同上）

種目	數量	元價
縮緬羽二重	一四六反	一、八二九・一〇〇円
	三八、一〇〇反	五二三、七一〇・八七〇
他の諸絹布類	一、四八二反	一三、六五八・八二〇
絹綿布類	二反	五八・四二〇
絹布手巾	一一六、六三二打	三六七、九一五・三五〇
絹製品類	三九、七三〇反	四二、五七二・九〇〇
計	一一六、六三二打	九四九、七四五・四六〇

備考　本年六月中の外國貿易全計は輸出千百〇八萬八千九百〇三圓六十五錢、輸入千六百四十九萬二千九百九十九圓三十一錢にして輸入超過五百四十萬四千〇九十五圓六十六錢、又七月は輸出千〇六十三萬六千三百十一圓六十七錢、輸入千七百五十四萬〇〇九十九圓三十五錢にして輸入超過六百九十萬三千七百八十七圓六十八錢なり

今西直次郎氏譯述

●伊國新繭各市場取引高

伊太利產新繭の最初各市場に於て取引したる高を昨年の取引高に對照するに左の如し

市場名	千八百九十七年	千八百九十六年	市場名	千八百九十七年	千八百九十六年
ピエモン州	六九、一四〇瓩	六五、〇九〇瓩	カウール	一一四、〇〇〇瓩	一〇四、〇〇〇瓩
アスティ	三六五、三〇〇	三四七、〇九〇	セソル	九三、二五〇	一二三、九二〇
アレキサンドリア	一八一、三五八	一六五、七三〇	チヨ	一五、四五〇	一四、九五〇
スチ	三九九、三三〇	三九四、三一〇	コニ	七六五、四九〇	七九、二〇〇
アブリア	四九九、二三〇	一二六、二五〇	ドゾリヤ	三、二二〇	四〇、八〇〇
カリフ	一三九、二五〇	八六、三五〇	ホノ	一三〇、五〇〇	一二〇、四九〇
カルマニヨール	八六、三五〇	九三、五五〇	イウサレ	七七、五五〇	八九、三三〇
カリ子ル	一一六、〇〇〇	五八、〇五〇	モンドウイア	一五、五〇〇	一八四、一〇〇
カサリエル	三六、七〇〇	三七、六〇〇	ノウイ、リギエール	二〇、四〇〇	二五、六八〇
カステルニユウチ	一一〇、〇七〇	一〇四、六二八	ピテロール	二〇、一五四〇	一九七、三七〇
	二八、七八〇	二二、七三〇	ウコニース	三六七、三〇〇	三〇二、八〇〇

伊國新繭平均相場

市場名	千八百九十七年	千八百九十六年	市場名	千八百九十七年	千八百九十六年
ピエモン州					
アレキサンドリア	一六四、六四〇	一四四、〇四〇	マシラ	二、一二七	二、九七
サヴイグリヤノ	一〇二、九五〇	一〇五、五〇〇	ストラデラ	二、三七	三、一一
ウラフランカ	四〇七、一九〇	二八、四八〇	ウイセリノ	二、九六	二、九五
チユラン	四〇〇、〇〇〇	七〇、五〇〇	中央地方		三、一三
合計	四、三二五、〇三八	四、〇五七、三九八	ボローニユ	二、一九	三、二八
ロンバルヂ及ヴエネシヤ州			ヴエンヂ		三、一七
アレシヤ	九八、七四九	一一、八八五	ホツプローシス		
コロニヤサヲタ	三一〇、六七二	三五〇、六二三	ピゼ		
クレマ	二三二、二四一	二四一、二四五	ユクシ	二、一二八	二、一二八
モーレ	一五三、一六四	一三六、〇二九	ルリ	二、一九	二、一九
ヌ、ヴラ	八三、〇四四	一五四、七六〇	メルゴ		
ヴエローナ	二三六、八九六	三一〇、〇〇〇	ヴエローナ		
ロヴイゴ	二六一、四六〇	四四三、二七〇	モデナ		
ニマ	一六五、八三二	一六八、三〇三	チエシ		
パツツイー	一〇、五七〇	一六、七二〇	パルマ		
ウ	一四〇、七六七	一六三、五七五	ユルビノ		
合計			合計		
ウチビラ	二、二五八、五六四	三〇〇、七三〇			
中央地方					
ガロー	一、九五一、九三九	二、四一七、一四〇			
ニユ	四一四、一〇三	四九一、九二六			
ヴエンヂナ	一〇一、二五〇	一二一、三二五			
フエレンツエ	三四、八七九	三四、五六九			
ホツプローシス	一三五、〇三二	一四六、〇六〇			
ピゼ	三五〇、六二三	三四一、二四六			
ユクシ	九六、八二〇	一四二、九〇〇			
ルリ	二〇一、九三一	二五、一二七			
メルゴ	九〇、〇七二	八二、二五九			
ヴエローナ	七九、九七五	一七六、六一五			
モデナ	一七六、六〇一	二二、五六一			
チエシ	一三〇、九二〇	二二、九八七			
パルマ	四五、二五	一一、一六九			
ユルビノ	二、〇五七、七四	二、〇五八、一三九			

リヴオルノ	二、一四	二、三〇	ペルザロ	二、二三	二、四四
サルシドニア	二、二五〇	二、六四	ユルビノ	二、二三	二、五九
ロンバルヂ及ヴエネシヤ州					
ガヴア	二、二八	二、四九			

但一「リール」は佛貨一法に同し

◉外報

●佛國製絲業奬勵法繼續案提出

佛國に於ける製絲業奬勵法繼續案代議院へ提出の件に關し里昂駐在帝國二等領事山田忠澄氏より五月二十九日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

佛國の現行蠶業養蠶業製絲業奬勵法は千八百九十二年一月一日より向ふ六箇年間實施すべきものとして發布せられたるを以て將に本年十二月三十一日を以て滿期に至るべし既に數回報告せし如く滿期後に於ける該奬勵法の存廢は實業界の一大問題にして善後の策を論ずるに繼續派あり關稅派あり而して各派の實業團體、兩院議員、商業會議所、縣會及市會は同派の利益を代表し其願望を貫行せんとして大に運動する所あり佛國政府に於ても亦蠶に報告せし如く蠶業奬勵法繼續問題に關する調査委員會を組織し滿期後に於ける斯業の保護策に關し專ら講究中なるが該問題を解決するに方りては養蠶業、製絲業及國庫の間雙方利益の調和を圖ると要し事頗る複雜に亘り講究未だ終了を告ぐるに至らず然るに製絲季節は毎年六月に始まり翌年の五月に終るべきものにして兩年に跨り現行の製絲奬勵法と終了との期を同じくせざるのみならず製絲業者は繭の收穫期即ち六月に於て全季節間の絲製に供すべき原料繭の總高若くは其大部分の仕入を爲さゝるを得ざるが故に來年一月より同五月間に至る五箇月間に對する奬勵金の存廢を決し斯業の方嚮を定むるは今日の急務なりとす前記五箇月間即ち來月に始まる製絲季節の終期までは依然奬勵金の特典を享有するの確信を得ざるに於ては製絲業者は新繭價格の下落を圖るか或は又原料新繭の仕入を爲すに本年年末までの使用高に制限するに至るならん形勢茲に至らば養蠶業者も亦甚大の損害を被るや疑なし依て佛國政府は現行製絲業奬

勵法を來る三十一年五月三十一日まで假に延期するの急務を認め即ち本月二十四日を以て該獎勵法の延期案を代議院に提出せしに該案は既に同院稅關委員の可決を得たり佛國本年の養蠶は今や將に收繭の期に接し時日切迫せるに依り不日該案の議院を經過するは蓋し疑なしと信ず

●佛國製絲業獎勵法存續　里昂駐在帝國二等領事山田忠澄氏より外務省への報告に據れば佛國政府は千八百九十二年一月十三日發布せし現行蠶業獎勵法の製絲業獎勵に關する條款を千八百九十八年五月三十一日まで延期存續すべき旨を本年六月二十三日の同國官報にて公布したりと云ふ（前項參看）

●ブルース養蠶業ノ趨向　土耳其國ブルースに於ける養蠶業の趨向に關する里昂駐在帝國二等領事山田忠澄氏より六月五日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

土耳其國ブルース蠶絲の當市場に於て我蠶絲に對する境遇は曩に屢ゝ報告せし如くなるが今更に其近狀を示さんにブルース蠶業講習所長トルコミアンの報告に據れば最近三箇年間に於ける同地方蠶卵の孵化量は二十八年九萬八千七百七十一「オンス」、二十九年十一萬八千七百五十三「オンス」四分ノ三にして同地方養蠶業は頗る速に增進の趨向あるを見る右孵化量二十九年の二十八年に對する增加は一萬九千九百八十二「オンス」四分ノ一なりき

二十九年に於ける飼育蠶卵高の殆ど全部は內國製種業の供給に係るものにして即ち其蠶卵高は二十八年に於て九萬八千二百三十「オンス」、二十九年に於て十一萬五千六百十八「オンス」四分ノ三なりき

亞細亞土耳其は從來佛國及伊國より蠶卵を購求せし所なるが近來同地方蠶業の進歩に因り自國產を以て需要を充足するに至れるのみならず特にブルース地方の如きは進みて蠶卵の輸出者たる位地を占め其販賣高は每年增加するの傾あり トルコミアンの統計に據れば右蠶卵輸出高は二十八年に於て十八萬九千二百三十九「オンス」、二十九年に於て二十一萬八千百六「オンス」に達せり其內譯左の如し（表中△印は減）

	輸出先	二十八年	二十九年	比較增減
露西亞		一七六、六八〇	一五八、四二〇	△八、二六〇
佛蘭西		一〇、二七四	五二、七九八	四二、五二四
波斯		一、三七五	三、四六六	二、一一一
希臘		六八〇	二、四六〇	一、七八〇

	輸出先	二十八年	二十九年	比較增減
伯爾加里	シプル	七	—	△七
	モンテネグロ	—	二	二
計		一八九、二三九	二一八、一〇六	二八、八六七
		七三七	九六〇	二二三

前表に據れば佛國はブルース產蠶卵の重要なる一販路と爲したるものゝ如し但し同地方より馬耳塞へ輸送する蠶卵高の大部分は實際伊太利へ再輸出せらるゝものと知るべし

次に土耳其國各地方の產繭高を統計すれば同全國昨二十九年中に於て六百四十六萬六千基に達したるものと概算することを得可し同國二十八年の收繭は中作なりしが二十九年は之に反し品位、量數共に著しく好良なりき

同國收繭量の凡そ三分の一は輸出に供し其餘は內地の絲製に給するを以て常とす而して內地織製業は微々として殆ど皆無の姿なるを以て該生絲は殆ど悉く外國へ輸出せらるゝものとす

右生絲一基の相場（歐洲市場著直段、無割引）左の如し

	二十七年	二十八年	二十九年	二十七年	二十八年	二十九年
初年	三九、五	三四、五	三八、五	宋年	三四、〇	四一、〇
收繭期間	三四、五	三七、〇	三四、五	平均	二六、〇	三七、五	三五、〇

●歐米生絲消費額　最近二年間歐米に於ける生絲の消費額に關し里昂駐在帝國二等領事山田忠澄氏より六月十九日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

瑞西國ヂュリック製絹業協會の調査に據り最近二絹業季に於ける生絲消費の狀況を示せば左の如し

明治二十九年の生絲產出高に加ふるに同年六月末（即ち前絹業季の末）現在の蓄絲高を以てするときは二十九年七月乃至三十年六月の一季に於ける製絹業の需用に供したる生絲量は千四百七十五萬四千百基にして其前季即ち二十八年七月乃至二十九年六月に於ては千六百萬九百基なりき今其計算を表示すれば左の如し

六月三十日に於ける新絲殘高　一、六三四、九〇〇〇　一、三一四、一〇〇〇　二十九、三十年　二十八、二十九年　一四、三六六、〇〇〇　二十九、三十年　一三、四四〇、〇〇〇

新　絲　高　計　一六、〇〇〇、九〇〇　一四、七五四、一〇〇

今試に最近二年間三月三十一日に於ける（前記協會の調査同日以後に亘らざるを以て）生絲在荷高を調査するに左の如し

	二十九年三月末	三十年三月末		二十九年三月末	三十年三月末
歐洲及東方諸國產	一、七九五、二〇〇	一、八七〇、四〇〇	極東諸國產	二、九四九、一〇〇	二、七九二、〇〇〇
			計	四、七四四、三〇〇	四、六六二、四〇〇

依て前記甲表の數量より乙表の數量を減ずるときは二十八年七月一日より二十九年三月三十一日までに消費せし生絲量千百二十五萬六千六百基にして二十九年七月一日より三十年三月三十一日までに消費せし生絲量千九萬千七百基なるを見るべし之を細別すれば左表の如し

	二十八、二十九年	二十九、三十年		二十八、二十九年	二十九、三十年
製絹季節（自七月至九月）	四、二一九、五〇〇	二、七四七、〇〇〇	同第三期（自一月至三月）	二、四六五、三〇〇	三、五六九、九〇〇
同第二期（自十月至十二月）	四、六七一、八〇〇	三、七七四、〇〇〇	計	一、一二五、六〇〇	一、〇〇九、一七〇

是に由りて之を觀れば當絹業季の初九箇月間歐米に於ける生絲消費高は前季中の初九箇月に比し減少を示すこと百十六萬四千九百基即ち凡そ一割なると同時に右兩季間各々三月三十一日に於ける原料生絲在荷高も亦八萬千七百基の減少を示せることを知るべし

又別に同協會が蠶絲檢査高と極東諸國の輸出高とを基礎として七月初より三月末に至る九箇月間の世界生絲消費高を計算したる所に於ても亦粗々同一の結果を見るものあり即ち左の如し

二十九、三十年	一〇、四三七、八〇〇	二十四、二十九年間平均高	一〇、五五八、三〇〇
二十八、二十九年	一一、二〇八、五〇〇		

依て二十九、三十年の絹業季に於ける生絲消費高は其前季に於けるよりも著しく劣ると雖も之を其前五季間の平均に比すれば稍々同額なるを徴すべし

●清國蠶業地方生繭賣買の影響

清國蠶業地方に於ける生繭賣買の織物業者に及せる影響に關する上海駐在帝國總領事代理二等領事小田切萬壽之助氏より七月八日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

當國にて著名なる繭、絲の產地は已に世人の知悉せる如く浙江、江蘇の兩省にして廣東、湖北四川之に亞ぐ其產額の統計に至りては未だ漠として知るに由なきも當國政府の設立に係る三織造所（江蘇省の蘇州、金陵（南京）浙江省の杭州）の年々宮廷の命に依り巨額の各種の綢、綾、紵緞絹等を製出し隨時供應毫も缺乏の憂慮なきを知らば其地方產額の如何に巨大なるを推知するに足るべし而して其三織造所にて需用する絲價は每歲約そ十數萬乃至二十萬兩の巨額に達するがため勢其所在地の絲價は一張一弛悉く左右せられ商賈も其鼻息を窺ひて業務を處理するは從來の慣例なりしが近來生繭賣買の風行れ養蠶者も勞少くして割合に博利の大なるを覺知するに及び其風漸次各地方に濫浸し就中無錫の如きは收穫高の六分を生繭にて沽賣するの狀態と爲れり加ふるに比年氣候不順寒暖亦當を得ざるがため繭の不出來なると外國輸出向益々旺盛に赴きしとに依り絲價日に騰貴し竟には底止する所を知らざるの趨勢に至りしを以て織物業者は資金の運轉上大なる影響を被り當斷折の憂を爲し斯くては已に數百年來維持せし絲況も一旦決裂し宮廷需用の緞、絲等に影響を及すことあれば容易ならずとして南京地方の織造業者は地方長官に上書して反省を求めしに地方長官頗る其說に同意し官吏某を浙日に派遣して生繭買收所並に江寧縣と協議し生繭にて賣買することを制禁せしめしと傳ふる者あり又杭州に於ける織物業者は組合會議を開き將に價格を高めんと欲せしも之がため顧客に影響を及し其結果店頭寥々たらんとするを憂慮し從來取引せる商估に對しては原價を以て取引を爲し其他當港等に輸出せる織物類は一般に割增を決議せしに依り當港にても過日同業者組合會議を開き本月一日より價格引上を決議し左の如き廣告を爲せり

各位の承知せらるゝ如く當年も繭、絲の收穫良好ならず隨て織造上割合に多額の資金を要するを以て價格を引上ぐるの已むを得ざる場合に至れり因て制規の通同業者協議の上七月二日より一兩に附き五厘（杭州產の織物類は八厘）の價上を爲すに附き右に承知ありたし

●蘇州現在製絲所概況

清國蘇州に於ける現在製絲所概況に附き在同地帝國領事館事務代理領事館書記生大河平隆則氏より八月五日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

蘇經絲廠　蘇州商務局（商務公司とも云ふ）に屬する製絲所なり抑ゝ商務局は湖廣總督張之洞が前年南洋大臣を代理せし時清國工業振興の目的を以て奏設したるものにて其資本は光緒二十年中蘇州に於て人民より借上げたる軍事公債六十萬兩を媒和後償還の期限に至り就論の上移撥して本局様金と爲せるなり即ち蘇經絲廠は蘇綸紗廠と共に實に其二大事業なるが着手後機械の注文、家屋の建築等創立費に對し前顯資本を銷盡したるため更に蘇州積穀公款即ち備荒貯蓄金中より三十萬兩を借入れしも是れ亦漸く不足を告げ近頃に至り有限責任と爲し再び增費の協議中なりと云ふ旁ゝ清國人中該事業の成効如何を懸念する者なきにあらず總辦は候補道朱之榛、總董は紳士陸潤庠、協理は祝某なり而して本廠は蘇州盤門外吳門橋附近大運河南岸に所在し煉瓦二階造にして機械の裝置其他彈て外國技師の設計監督を經たるものとす開業は昨年十二月中旬に在り現時に於ける工女數は撰繭製絲揚返等に從事する總員凡そ四百人に上り年齢十三四歳より三十歳位までにして募集地は江北、常州及蘇州なり賃銀は墨銀五仙以上三十五仙以下とす尤も監督工女賃銀は四十仙餘なり就も二週間毎に現金を拂渡すと云ふ勞働時間は一日十時間にして午前六時に開廠し午後六時に閉づ未だ夜業なし又日曜日は休止す鍋數は凡そ三百八十箇、内百餘箇は裝置未濟なり原料たる繭は無錫地方にて仕入る石炭消費高は目下一日二噸半にして我九州炭を用ふ其製造高は同八十斤内外にして仕向先は上海に送り外國生絲廠に賣込むと云ふ又雇外國人は伊太利人一人あり

吳興絲廠　蘇州海關前密渡橋東河岸に在り清國人王祖慶其他數人の合資に係る製絲所とす商務局二廠に比すれば規模狹小にして鍋數も僅に百箇に過ぎざれども社員の經理頗る宜しきを得るを以て將來相應の利潤を見るべしと云ふ其構造機械等は前廠と同じく外國新式を採れり

●紐育生絲商況

在紐育農商務省實業練習生大木信次郎氏より同地生絲商況に關し六月二十六日附を以て農商務省へ左の如く報告ありたり

目今生絲商業の來期に於ける當地の趨勢を豫想し得べしと信ずる原因を列擧すれば左の如し

一般商業の形勢を察して景況の如何を來期に推測すること

來期繭收穫の多寡を推察すること

前年度生絲の在高を考へ輸入し來るべき高を概知すること

以上の原因に據り精査することを得ば稍ゝ將來に對する計畫を定むることを得べく現に本年新絲以後當米國生絲市場を豫想するに該市場は大波瀾なき平穩の商業を好むものと云ふべし故に亂高下少く相當の市價を保持し得べく又輸入商の如きも機業者の破產少く先づ相當の利益を見ることを得べし其所以は當國一般商業の狀態より觀察すれば商業上に於ける政治的影響の最も大なる大統領選擧を終りてより一時は好況に恢復し得べき感ありしも如何にせん數年間年々不景氣に陷りたる市場は一朝にして俄復し得べからざるも漸次好況に向ふべきは明白の事實と云ふべし故に本年春期の一般商業は世人豫想の如く不景氣を恢復せざりしが製造工業等共に多少其面目を改めり殊に「ドライ、グード」類の如きは内地各地方の賣行最も善く隨て絹織物業の如き前年の不味に反し新に企業する者工場を增設する者又は數年來閉止したる工場を復舊する如き事實陸續として起り此盛況は竟に勞働者の同盟罷工を釀し給料の增加或は勞働時間の減縮等を以て雇主に請求する箇所あれば其結果は皆雇主の容るゝ所と爲り一も被雇者の敗を取らざるは蓋し絹織物業好況の一證と云ふべきなり尚ほ今日に至るも未だ同盟罷工全く盡きずと雖も機屋に於けるものは先づ其焔を減したるが如く近來は仕立屋業者、被雇者に盛に行れ是又雇主の失敗に歸する如きの感あり以て一般の大勢を窺ふに足るべし然らば今後は如何と云ふに米國商業を左右し得べき各地方農作物の收穫も不良ならず尤も曩にミスシッピー河の溢水ありしとき世人は綿の收穫を杞憂したるも事實は想像の如くならず反て退水後の沃田に再種せられたるを以て其發育實に倍すると云ふを以て彼是何の點より觀察するも一般商業は先づ好況なるが如し隨て一般人民の生活の度も高まり絹物の如き需用多きは必然なるべし又之を生絲商業の上より見れば今回の新稅案は本邦及獨、佛等の故障に依り多少の減率はあるべきも幾分の增稅は避くべからざるを以て内地工業は該案保護の影響を視るべきや疑なし近來風説の如く絹物に對する該法案撤回せられ從前の儘とするも自然内地織物業者を奬勵し新工場を起し或

は增設し又近頃機業中盛に行はるゝ工場を各所に分設するの計畫（職工工女の不足及同盟罷工等の厄を避くるがため新工業地を他所に求めて之を補ふの畫策に出づ）等皆生絲需要の增加を來すべき原因なちざるはなし是れ一般商業は勿論生絲商業に於ける〻不時の障害なき以上は來期即ち新絲以後の市場も好況なるべしと信ず次に收繭の多寡は如何と云ふに伊、佛兩國繭の收獲は未た確報を得ざるも氣候不順のため平作或は平作以下なるが如し而して東洋繭に於ける本邦の如き霜害若くは氣候不順のため上作なちざるものゝ如くなるも一般收繭の上より見れば昨年に比し優るものとし是又甚しき增加と見ることを得ず故に最近一週間に於ける當市生絲市場の少しく動搖したるが如き一般生絲商業者の眼光も或は各地方の作柄上作にあらざるを見込みしに因るならんか又本邦定期市場の此一週間大に昂騰したるは是亦右の理由に起因し本邦に於て昨年以來大に世人を誘導したる支那繭買入製絲等に依り幾分か本邦生絲の產出は增加すべしと見るも十分需要を充すべき供給ありとは信ずることを得ず之を要するに事情未だ不明なるも作柄良好の年にはあらざるべし是れ來期生絲商業の好況なるべしとする一原因なり又舊在荷の高を知るの困難は最も隔靴の憾ありと雖も本邦に於て在荷の少きは事實にして當地の在荷も輸入商自身は相當の持荷ありと視るも翻て機屋の方向を察すれば替蹤備の荷物は有せざるもの〻如し是れ今日に至るまで來期の見込を着くること能はず成行にて當用品のみを購求し來りしこと三四箇月に亘れり故に機屋の手に存する在荷は極て少きものと見るを得べし又輸入商の持荷も總數概ね千箇前後に過ぎざらん果して然らば之を全體米國市場より見て在荷多きものとすることを得ず又之を今後の輸入額より見れば我邦の產出輸出高五六萬俵に達するものとし伊、佛平作と見れば輸入俵數の遽に增加し來るべしとするを得ず故に之を平均すれば本年新絲の頃は持荷不足に市場を開くものと見るべからずと而して是等の原因に依り本年新絲以後の當國生絲商業は概して好況なるべしと判斷するも大差なきが如しと雖も尙ほ今後の流行を察して之に供する生絲の細太、品質の適好するものを豫想せば繻子地及琥珀地にして色は黑の一種とし普通機業の製作品は以上多數を占むべしと信ず而して之に要する生絲は十五中乃至十四中にして十二、十三の細物は之に適せず又生絲の品質は强ち最良の生絲に限らずして普通一等品及飛切位の品最も機屋の寵む所なちんか當國絹織物業者が本年春以來事業擴張に急なる所以及職工の同盟罷工に遇ひ

曾其請求を容れ事業旺盛殆ど不景氣を知らざるが如しと雖も實際は今日敢て斯の如き好況なるにあらずして皆後日を豫想するに因るものゝ如し素より今日と雖も不良なるにはあらざるも今新企業擴張の原因と爲りたるが如し

以上種々の現象を總括して通觀すれ本年米國生絲の市場は決して不景氣とは信ぜざるも亦未だ必しも盛況と謂ふを得ず其所以は當國一般の商業未だ恢復し得べきにあらず寧ろ其途にあるものにして今日金融緩慢なりと云ふが如きも前年來不景氣の反應として顯れたる一時の現象と見做し得べく故に今日は漸次自己商業の縮少を挽回し同時に益〻擴張せんとするの時代たるは自然の傾向と見るべく又其擴張たるや往年の失敗に懲み序を追ひて進まんとするものゝ如し之を要するに當國の商工業は單に絹織物業に止らず總て有望の時代に在るものと親るを得べし

入造絹絲　凡そ十年前より化學の進步に依り木皮の纖維を原料として藥品を用ひて天然蠶絲に等しき生絲を製造し得べしとの說初て佛國に起るに當り世界の學者實業家殊に製絲製絹の業に從事せる者は曾其成行を案じて甲贊し乙駁し殆ど歸する所なかりき然るに事實は單に學說上の推論にあらずして竟に英、佛及瑞西に人造製絹會社の設立を見るに至り恰も一工業を增加したるやの感あるが如く又當國に於ても去四月以來英人の誘導に依りポストン府に於て人造製絲會社の設立を發起する者ありて普く株式募集の回章を發送するに至れり今此人造製絲の事業にして果して其好の結果を擧ぐるに至らんか本邦の如き生絲の產出を以て唯一の輸出品とするものに在りては其關する所實に尠少ならざるべし故に今當市の新聞紙及雜誌等に散見せる記事に據り彼のポストン府に於て一大人造製絲會社の設立を唱導し竟に株式募集に著手したる事情、其設立者の意見及人造製絲方法の大略等を併記し且つ同事業は今後一層の改良進步を爲すにあらざるよりは今日に在りては到底謂ふべくして行ふべからざることたるを左に略述せん

人造製絲の發明は其始原決して遲きにあらず始て此發明を佛國に於て唱導したるは既に十年以前に在り而して後英國人に依りて其發明權を買收せられたるものなりと云ふ故に本年當米國ポスト

ン府に於て一大人造製絲會社設立を發起するに至りたるも實に英國人の誘導に據るものなりと云ふ今以上米國人造製絲會社發起總代人の所說に據れば該事業の發明人は佛國人コアン、イレール、ド、シャルドンチーにして佛國已に之を實用して良好の結果を得又英國に於ても同事業の奏效今や疑ふべからずとし其需用の途は天然蠶絲の供給すると凡ての用途に之を用ひ廣幅物、狹幅物、裝飾用品、縫箔用等皆良好の結果を顯せり又之を毛、木綿、「リンチル」等に適宜に混用し得べしと今日英國に在る人造製絲會社はブランドンと稱する所、佛國に於てはブザンソン及フォスムの二箇所に在り又瑞西に在りてはスプリクテンペヒと稱する所に在りと而して以上シャルドンチーの方法は萬國共通專賣特許條例に依りて決して侵害せらるゝの虞なく實に安固の工業たり同製絲を適用するに當りても製絲家、製紡家共に其機械を變更するを要せず又製造費用に至りても實に從來の一半を要するに過ぎずと而してボストン府に設立を發起せられたる同製絲會社は總資本金五十萬弗にして之を五千株に分ち四千株は發起人に分配して殘千株を普く募集するに在りと而して其會社の事業は單に製絲のみならず染色及織業に至るまで之を行ふべしと云ふ

シャルドンチー人造製絲方法の大意　今佛國ブザンソンに於ける同製絲の方法なりとて雜誌に掲ぐる所に據れば木皮の纖維（製紙か襤褸類に依りて得らるゝと同じく之をも實用し得べしと）を取り之を硝酸及硫酸中に浸すこと一定時の後其液を去り其纖維を水層中に洗滌し之を乾燥せしめたる後亞爾箇保爾及「エーセル」の「シリンドル」中に或る一定時間中入置き次に濾袋に掛くるときは恰も護謨の如きものと爲るべし後又之を他の「シリンドル」中に入れ空氣唧筒に頼りて管を通し紡績部に吹送るの裝置なりと其管の一端は極少の穴と爲り其穴に入る纖維は概數十本許にして間斷なく送くることを得るの裝置にして工女は指を以て其穴の口より摘出して得たるものは頭髮大の粗絲と爲り之を順次間斷なく撚絲機に掛らしめ其後の手續は一も天然蠶絲の製法と異なる所なしと以上は所載粗略にして譯出するも其要領を得ずと雖も大體の手續は斯の如きものと見て大差なかるべし今回ボストン府に起りたる人造製絲會社に就き當地有數の好雜誌「テキスチール、アメリカ」と稱する雜誌社は當國製絹家及生絲商に對して同事業の果して成效の見込ありや否に就き各々意見を徵したるに孰も大同小異にして曾人造製絲業成效の期し難きこと及今回の人造製絲會社設立も是亦成效せざるべきことを反覆推論したるに過ぎず以て同事業の如何に當米國當業者に目せらるゝやは推知するに難からざるなり今諸家が實驗の結果に據り得たる人造絹絲の缺點を擧ぐれば左の如し

一濕氣を帶び易きこと　一粘着し易きこと
一强力に乏しきこと　一色澤に味なきこと

以上の缺點に據り假令製造費極て寡く隨て廉價に販賣し得るとするも到底實用に適せざること明白にして今後人智の發達に依り幾層の進步改良を加へたるの後は姑く措き今日に於ては決して天然蠶絲の敵と目するの價値なきものと謂ふべし否な寧ろ机上の論客が好奇の弄物として喜ばるゝに過ぎず

●印度の蠶絲業

（明治三十年七月十七日印度駐在佛國總領事報告抄譯）

大日本蠶絲會員　今西直次郎氏譯送

印度製絲場の數は八十五箇所にして其内八十三箇所はベンガル一箇所はカシュミール一箇所はミソールに設けあり此製絲場の外に多少小製絲場あるなり而して其最も大なる製絲場はベルハンポールに在りて佛國人バイヤン商會の所有に屬す

英領印度の養蠶業に關しては英國政府は十年以前より土地の製絲家を伊佛兩國に派遣し養蠶製絲の改良進步を圖らしめたること屢々なりき此製絲家の歐洲より還るに際し伊佛の蠶種を持歸りたれば英國政府は此蠶種を以て試驗を施さしめたるに其結果可なり佳良なりしかども歐洲產繭に比較すれば絲量少くして復製も亦漸々減衰するに至れり蓋し印度の養蠶は一年十一回に渉り氣候炎熱に過ぎ桑葉亦良からず此原因によりて伊佛其他歐洲諸國の如き良繭を收穫する能はざれば之を當地及ひ英國に於て實驗せる所によれば伊國產繭一顆の絲長は平均六百メートルなりしが印度產最良の繭は僅かに二百五十

メートルに過ぎず且つ纖度均一ならず切斷甚だ多くして續節亦少からずとす

印度の養蠶地はマルシダバード、マルダー、ラドナゴール、ラガマチ等にしてベンガル地方にも之に從事するものあり又マサーム地方に於て白繭種を飼育するものあれども其繭形は桑蠶繭に似て繰絲すること能はず故に之を英國に輸送し紡績に供して絹紡績絲に用ゆるなりミソール及カシユミールに於て伊太利蠶種を以て勉めて伊國及佛國地方の温度に倣ひ飼育せるに頗る好結果を得殊にカシユミールを良好とす

印度蠶種の主なるもの三種あり第一はマルベリーと名けて黄繭青繭の二種なり其蠶は桑葉を以て之を養ひ其繭は歐洲の古繭種なりとす第二はチユソール(柞蠶)種にして種々の樹葉殊に林擒、梨樹の類を得て之を養ふ此種類は支那にも亦甚だ多しとす第三は前に述べたるマサーム繭の如く印度の外之を飼育せず而して其絲は精練も染工をも加へずして需用に供するなり此絲を名けてモーヂヤシルクと云ふ要するに第一のマルベリー種を以て製産せる生絲は年々三千乃至四千俵にして其内二千五百俵は他國に輸出し其他は内地用に供す一俵の平均量は凡そ七十二瓩なりとす

◉雜報

●新潟支會品評會

大日本蠶絲會新潟支會にては本月十日より十四日まで五日間古志郡長岡町新潟縣農事試驗場内に於て第二回大日本蠶絲會新潟支會(蠶種、繭、生絲)品評會を開設する旨八月二十六日附を以て本會に屆出たり

●蠶業講習所卒業證書授與式

西ヶ原なる蠶業講習所に於て七月三十一日別科傳習生卒業證書授與式を擧行せられたり來賓は農田農務局長を始め横濱生絲檢査所長岡毅、農事試驗場長澤野淳、農務局牧馬掛長青山元、同局蠶茶課長紫藤章、福島縣蠶業學校長外山龜太郎、山梨縣技師八田達也、大日本農會幹事小笠原金吾の諸氏其他農務局員、農事試驗場員、實業家及新聞雜誌記者等無慮六七十名にして大隈農商務大臣も臨場せらるゝ筈なりしに急を要する公務の爲め遂に臨場せられざりしと當日は來賓の觀覽に供するため養蠶試驗室の全部及び本科傳習室の大部に蠶絲業に關する器械、器具、模型標本等を陳列し並に十數臺の顯微鏡に蠶體の組織、生理、病理等に關する「プレパラート」を裝置したるものを排列し掛員は一々來賓を導きて自由に之れを縱覽せしめ又懇切丁寧に之れが説明の勞を取られ觀者をして益する所あらしめたり

式場は顯微鏡室を以て之れに充て午前九時三十分卒業生及傳習生、傍聽生等着席同十時來賓及職員着席直ちに練木所長卒業生五十四名に證書を授與し終て式辭を陳ぶ次で農務局長の演説あり卒業生總代齋藤四郎治氏答辭を朗讀し澤野農事試驗場長の祝辭あり以て式を終り諸員退場す時に午前十一時三十分夫れより來賓は休憩所に導かれ茶菓及び麥酒等の饗應を受く休憩所は講義室に之れを設け中央の柱二本は杉の青葉を以て骨とし島田簇を以て綠とし粽糠の上に夏蠶の同功繭を以て一は蠶業一は萬歲の大字を隷書に現はしたるものにして頗る美麗の出來なり食卓は「アーチ」を挿みて二列に之れを設け香氣の馥郁たる草花を卓上に排置し更に室の東西には杉の青葉を以て裝飾したる大花瓶に尨大なる花卉を挿したるものを安置したる等中々の美觀なりし又卒業生及傳習生には別席に於て茶菓を供したり斯くして全く散會したるは午後二時頃なりき

今卒業生の氏名、練木所長の式辭、農務局長の演述、卒業生の總代答辭、及び澤野農事試驗場長の祝辭等を得たれば左に掲ぐべし

卒業生氏名

宮城縣　齋藤四郎治　千葉縣　狩野　仲平
京都府　大島好太郎　愛知縣　小柳津　藤治
千葉縣　鈴木雄造　茨城縣　佐藤七之助
島根縣　大阪惠太郎　山形縣　大竹長之助
山口縣　世良信一　廣島縣　奥田雪太郎
栃木縣　西海石榮吉　山梨縣　篠原亮海
島根縣　宇津爲太　靜岡縣　榛葉英作
鳥取縣　眞田又次郎　高知縣　松本幹一郎
巖手縣　岩淵清之助　山梨縣　古屋景晴
群馬縣　龜井三九治　大阪府　松倉貢
福島縣　金成金彦　宮城縣　島橋富士
三重縣　中尾伊之助　群馬縣　樺澤藤吉
千葉縣　宮川龜三郎　大分縣　橋本眞鶴
山形縣　鈴木勉三　靜岡縣　名波信吉

鳥取縣　宮本文太郎
富山縣　秋本重治
高知縣　明神武雄
山口縣　津森次郎
埼玉縣　紺野里吉
福島縣　四方田巳之吉
山梨縣　飯田小三郎
北海道　信濃茂助
岐阜縣　海老房吉
神奈川　鎮目定太郎
兵庫縣　絹卷李藏
香川縣　高重逸太郎
新潟縣　高橋善一郎
熊本縣　牧繁喜

福岡縣　鹽田穀太郎
香川縣　山田德三郎
奈良縣　奥田楢松
熊本縣　田上清
愛知縣　稻葉登名藏
石川縣　安川松三郎
乾　榮三郎
群馬縣　岸本卯市
岡山縣　青木二男
高知縣　長野藤澤藏次郎
茨城縣　飯塚蓮郎
宮崎縣　鈴木虎藏

蠶業講習所長練本喜三氏の式辭

本所開設以來卒業生を出すこと茲に二回本日は其の第二回に當ると雖も而かも其實本所官制の規定せる所に由り募集せられたる別科傳習生としては之れを第一回の卒業となす乃ち本日は本所歷史上一大特書すべきの紀念日たり恰も此の紀念日に當り我農務局長を始め各位の貴臨を辱ふしたるは眞に本所の光榮とする所なり

抑此の別科生なるものは當業者中殊に斯業の改良增殖に熱心にして入所の希望切なるも或る事情のられ爲めに速成を要するものに對し特に設けられたるものにして傳習科程は略ぼ本科生と一般均しく蠶業全班に亘るも傳習期日は即ち去る三月一日より本月本日に至る五ヶ月間とす而して其の程度の如きは去る明治二十三年以來當農務局蠶業試檢場の出せる卒業生と大差なきなり

却說本所傳習の起原は遠く十有四年の前にあり彼の怖るべき微粒子病殄滅の階梯として發布せられたる明治十九年本省々令第九號蠶種檢査規則の實施に要する檢査員の養成に其の端を開きしより以降昨二十九年に至るの間卒業生を出せること一千百六十二名此の内去る二十一年を以て施行せる蠶種檢査法の檢定試驗に及第せるもの四十八名あり之れに今回の卒業生五十四名を合すれば則ち總計一千二百十六名の大數に達す是等卒業生は實に本邦蠶業改良の先達にして增殖の指導者たるは各位の疾くに熟知せらるゝ所今や宇内の大勢本邦蠶業の改良增殖を促すの急なる亦各位の既に熟知せらるゝ所此時に當りて此の卒業生を出す我蠶業界の迎ふる所果して如何なるべきか是れ各位の已に諒知せらるゝ所又喋々を要せざるべし

次で卒業生諸子に一言せん願に志願は成就の先驅にして勉强は忍耐の父母たり現に諸子が客歲の志願は此の五ヶ月間の勉强忍耐となり又今日の卒業となれり諸子は已に此の志願を成就し今や將に進で諸子が本來の志願たる我蠶業の改良增殖の事を成就せられんとす是れ實に諸子が本分たり蠶經に曰く蠶有六德衣被天下生靈仁也食其食死其死以答主恩義也身不辭湯火之厄忠也必三眠三起而熟信也云々之れを蠶の本分となす諸子が飼育せらるゝ所の蠶爾たる彼の蠶にして其の本分を盡すこと已に斯の如し況んや堂々たる諸子をや其の本分を盡すに於て豈に蠶に愧ぢざらんことを希望の至に堪へざるなり

藤田農務局長の演述

本日蠶業講習所別科生卒業證書授與式を擧行するに際し農商務大臣親しく臨席して一場の演述ある豫定なりしが俄然他に急を要する公務を生じ爲めに缺席ありしは本官の深く遺憾とする所なり抑農是國本の言は海の内外時の古今を問はず不拔の格言たるは毫も疑を容れざる所なり彼の英佛を指して或は商業國と云ひ或は工業國と云ふが如きは蓋し論者の着眼如何に因りて映ずる所の幻影に外ならざるべく之を歷史に徵するも古來國として農を外にし能く其命脉を繫げるものなく又經濟書典を繙くも農を以て國富の泉源と說かざるはなし彼の英國の如き自國生產の穀類は幸く國民の幾分を養ふに足らざるも尙ほ農を以て立國の基礎と爲し深く心を之が改良の點に注げり況や我日本の如き貿易の業漸次發達進步を爲すも一の殖民地あるにあらず勢ひ民食は專ら之を國内に仰ぐの國にあ

りては重を最も斯農業に措き孜々として之れが保護奬勵を講ぜざるべからざるや明なるに於ておや而して各種農產物中主なる民食たる米穀と主なる貿易品たる蠶絲とは產出孰れも其多きを占め我帝國の命脈は實に此の二品に係り其產出の豐凶は大に國家經濟の消長に關す顧ふに蠶絲の業は比年進歩の狀なきにあらずと雖も然も亦細心警戒せざるべからざるところあり是れ他なし隣邦淸國は地廣くして民多く牧畜の額亦我に幾倍し蠶絲の質漸く精に時に我を凌駕するものあるを觀る殊に金貨本位の制度は此種貿易の競爭上最も注意する所なかるべからず

又政府は曩に蠶種檢査法を發布し明年を期して以て全國劃一の制に據り蠶種の檢査を實施せんとす乃ち本所當來の修得生及今回卒業生中に該法運用の衝に當るもの少なからざるべし宜しく嚴正其職に力め以て法律の光華を發揚し且蠶絲の素源たる蠶種の改善に力むるを要す

今日幾を卒へるの諸子は蠶業講習所規定の新課程に依りて修業したる第一回の別科生にして其一擧一動は實に後進者の模範たるを期す諸子は首は春秋に富み已に稍ゝ斯業に通ぜるもの而して更に本所に其枝を研く惟ふに出でゝ實務に當るに於ては世に利するところ蓋し鮮からざるべく世の諸子に待つところ亦前日と同じからざるべし諸子の責亦大ならずや諸子夫れ說意事に當り誠實世に處し以て國家撫育の恩に酬ゆる所なからざるべからず是れ今日の卒業式に臨み本官の切に諸子に希望する所なり

卒業生總代齋藤四郎治氏の答辭

維時明治三十年七月三十一日農務局長閑下其他貴顯の貴臨を辱ふし茲に卒業證書授與の盛典を擧行せらる生等の光榮何を以てか之に加へん謹て惟ふに生等今日の榮典に與り一身此光彩を加ふる所以のものは一に曾所長閑下講師諸君の慇懃懇到にして諄々止まず教誨薰陶の餘澤にあらずして何ぞや是生等の深く肺肝に徹して其鴻恩の萬一を事實上に報ぜんことを誓ふ所以なり而して今亦所長閑下の訓言を辱ふし示すに將來の方針を以てせらる特に農務局長閑下の高論を藥り深く腦裡に浸貫し拳々服膺して晨に夕に忘れざらんことを期す生等の不敏敢て大成を望むべからずと雖も既に身を挺して蠶業界に投ず將に鞭弱鳩精股肱の全力を盡して以て邦家富源の蠶業を補進し而して既得の學理を實地に應用して益ゝ豐價ある國產たらしめんことを欲す當志既に此の如し若し赤誠凝て渝滴の效績を奏するに至らば是れ生等が今日の光榮に應へ今日の鴻恩に酬ゆるの時ならんを信ず之れ生等平素の志望にして又將來の目的たれはなり聊蕪言を陳して答辭となす

農事試驗場長澤野淳氏の祝辭

茲に本日を卜し農商務省蠶業講習所別科卒業證書授與式を擧行せらる余亦斯典に與かるの榮を得たり仍て聊か所思を陳べんとす

回顧すれば本所の擴張せられしは實に明治二十九年四月一日にあり爾來業務の影大と共に世の信用益ゝ篤く本所に就て傳習を希望する者甚た多しと云ふ今や我が養蠶事業は駸々乎として長足の進歩を爲し之より產出する生絲は曾に貿易上の首位を占むるのみならず其隆替は國力の消長にも影響を及ぼすに至れり蓋し其是に至りし所以のものは世界蠶絲需用の趨勢の然らしむる所と雖も亦本所の如き與りて大に力ありと謂はざるを得ず

夫れ斯の如く本邦蠶絲業の年を追ひて益ゝ隆盛に赴くは明白なる事實なりと雖も蠶絲は獨り我國の特產にあらずして生絲の精良なるは尙ほ伊佛に劣り產額の饒多なるは遙に支那に及ばず故に外にしては是等勁敵を後駕するの策を講じて以て進取の氣象を養成し內にしては斯業の改良振興を計り勉勵忍耐以て事に當るは目下の急務なりとす

本日卒業證書を得られたる諸君は蠶業講習所別科の新課程第一回の卒業生にして即ち是よりして世に立ち後進者の模範と爲らるゝものなり故に余は此盛典を擧行せらるゝに際し聊か蕪言を陳して以て祝辭と爲すと云爾

●蠶種檢査法未施行地　明治三十年法律第十號蠶種檢査法第十三條に據り左の地方（北海道廳の內天鹽、北見、十勝、釧路、根室、千島の六箇國）に於て蠶種檢査法を當分施行せざることを認可せり」と八月十二日農商務省告示第二十九號を以て公布せられたり

●横濱生絲檢査所生絲檢査調　横濱生絲檢査所に於て本年七月一日より八月二十八日に至る五十九日間に內外生絲貿易商及び地方生產者の請求に應じ檢査を施行せられたるもの左の如し

檢査請求項目	件數 器械	件數 坐繰	件數 計
原量、正量、再繰、繊度、類節、强力、伸度、練減	四		四
原量、正量、再繰、繊度、類節、强力、伸度	六〇		六〇
原量、正量、再繰、繊度、强力、伸度	一		一
再繰、繊度、類節、强力、伸度	三五六	二三	三七九
再繰、繊度、强力、伸度	六九	一八	八七
再繰、繊度、類節	一四		一四
再繰、繊度	四		四
繊度、强力、伸度	一		一
繊度	一		一
合計	五二〇	四一	五六一

●神戸生絲檢査所生絲檢査調　神戸生絲檢査所に於て本年六、七の兩月間に生絲貿易商の請求に應じて檢査せられたるもの左の如し

檢査請求項目	件數 器械	件數 坐繰	件數 計
再繰、繊度、類節、强力、伸度	五		五
合計	五		五

●清國蠶況續報　清國（派遣の蠶業講習所技師松永伍作氏より同國の蠶況に關し農商務省への報告は前號に掲載したりしが爾後左の如く續報ありたり

前報（六月三十日）後當地の繭價は非常の騰貴にして即今（六月二十一日）乾繭百斤に附き百十兩（我百七十一圓八十二錢）に達し尚ほ坐繰絲の如きも一貫目に附き三十一二圓の高價を示せる由此狀況を以て推せば本年は最早支那より繭又は絲の輸入は到底望むべからざるものゝ如し（以上第八報）

前報（第八報）の如く競爭外の絲業繭價大に騰貴し乾繭百斤上等百十五兩內外より中等百兩內外に達し又本年上海へ集合すべき繭は乾繭にして凡そ一萬四五千擔の見込なりと云ふ上海製絲所は目下尚ほ新繭を繰絲する者稀にして概ね古繭を製絲し居り現に昨、一昨の兩日同製絲所を縱覽せしに其內一箇所は六口取器械なるにも拘らず恰も本邦屑繭の如き劣等なる古繭を四口取にて製絲しつゝありしは其思ふに繭の品質劣等なるに因るならん斯る劣等品より繰製せしものなるを以て生絲は赤色を帶ひ色澤不良なれども類節の尠きと繊度の均一なるとには驚けり又同製絲所に於て新繭の製絲試驗を爲し居りしが其絲の良好なる未だ嘗て見ざる程のものなりき昨日は往時富岡製絲所の教師たりしブリューナ所有の製絲所をも縱覽せしに概ね六口取にて新繭を繰絲しつゝありしが其生絲亦極て良好なりき當地生絲の相場は新絲百斤上等六百五十兩內外即ち凡そ我八百七十七圓五十錢（一兩は我一圓三十五錢許）にて豫約出來せりと云へり又坐繰絲（七里絲の類）は百斤上等四百五兩內外より中等三百六七十兩內外なりと而して當地生絲の取引も又本邦漢濱同樣每日變動ありと雖も右は四五日以來の價格なり（以上七月二日附第九報）

七月三日上海を發し同七日香港着翌八日より廣東及同省中最も蠶業隆盛を以て著れたる順德縣下を巡察せしに同縣陳村、大良、甘所及南流縣九江の如きは實に蠶絲の產出多額なる地方にして同縣及香山縣其他附近の地方に於て凡そ十二萬俵（一俵は英斤八十斤）を出すと云へり而して同所に洋式器械製絲所百四五十箇所あり又足踏器械（洋式器械を模造せしもの）にして六七年前よりの使用に係れり）あり是等を以て繰製せし生絲は之を器械絲として外國へ輸出す其額一箇年凡そ三萬俵の多きあり此他凡そ九萬俵は清國內地使用向に供し尚ほ其內撚絲及染色せし絲も輸出するを以て少くも廣東省より外國へ輸出するものは四萬俵を降らざるべし此地方は養蠶を行ふこと一箇年六回に及ぶと云ふ桑園は管枝刈にして我信州松本地方に於ける夏秋蠶飼育に用ふる桑の仕立法と同じく其六回養蠶の最始は清曆二月下旬、最終は同九月下旬乃至十月上旬たり現今早きは三回目收繭中晩きは上簇中に屬せり蠶種は第一回發生の越年せるものゝ外は皆其年の產卵に係る繭は皆緊縮なき長形の劣等なるものにして最上等撰別十分なるは四百斤の乾繭にて百斤の生絲を繰製し得れども尋常のものは六七百斤の乾繭にて漸く百斤の生絲を得るに止れり而して其繊維は細くして稍ゝ强きが如しと雖も

其層浮輕なるがため上海邊に於けるが如く六日乃至四日取等にて繰製し難しと云ふ且つ第二回より第六回までに發生すべき蠶種は產卵の翌日未明に微温湯に浸して其發生を促進せしむるの方法に據れりと云ふ（以上七月十四日附第十報）

目下は恰も第二期柞蠶の二眠起なり小官の巡廻せし清里百里以上の地は連山皆柞蠶飼育の林にして養樹即ち柞は當地にて之を柏羅樹と云ふ而して其仕立方は方四五尺幹に一株を植え根刈あり中刈あり我桑樹の仕立方と大差なく刈込は十一月頃なりと云へり但し第一期は四月上旬頃發蛾產卵し同中旬頃發生して六月上旬若くは中旬頃より收繭し第二期は六月下旬頃より發蛾產卵し七月中旬頃より發生して九月中旬より收繭を始むと云ふ（久水領事の言に據れば遼東の地は發蛾及其蠶兒の發生とも少しく遲れ飼育日數稍〻多きを要し其第一期は四月下旬發生し七月上旬頃の收繭にして其第二期は八月上旬頃より中旬に亘りて發蛾し同下旬發生十月二十日頃より收繭に就くと云ふ）其飼育法に至りては我長野縣安曇郡地方に於けるものと大差なきが如し而して此他に登州府及萊州府等は柞蠶の飼育尙は一層盛大なるものありと云ふ又樓霞縣の如きは柞蠶の盛なるのみならず家蠶を飼育する者亦多し

次に芝罘領事館の取調書尙ほ本地柞蠶を取扱ふ者に就き調査せるものを記す芝罘を經て外國及支那內地に輸出する柞蠶絲、繭紬竝に其屑物等を合すれば大約百七八十萬圓の多額に上り更に山東及遼東の產額を合すれば蓋し數百萬弗の額に達すべし其內繭紬の我日本に輸入する額は凡そ十萬弗なるべしと言へば之に上海より輸入するものを合すれば相應の多額となるべし今芝罘港より各內外地に輸出する繭紬の價格を揭ぐれば左の如し

編織傘地（長さ五丈五尺幅一尺五寸九分）　（重量三百二（清尺を用ふ長二十匁附位）毎匹價六圓五十錢許）

同（長さ六丈餘幅一尺五寸九分）　（重量三百五十匁附位毎匹價七圓二三十錢）

同（傘地日本向長さ六尺餘幅一尺八寸餘）　（重量四百目附位毎匹價八圓五十錢許）

繭紬地（日本尺幅一尺長さ五丈七尺餘）　（重量二百五十匁附位毎匹價四圓二三十錢）

右繭紬地は重に日本向にして尺幅共に日本の織物と大差なく其價格は毎匹三圓內外乃至六圓內外まで

其他洋服地若くは支那服地は長さ四丈五尺、幅一尺五寸物重量二百匁內外にて毎匹價四圓七八十錢、長さ五丈六七尺、幅一尺餘物重量二百五十匁內外にて同五圓五十錢にして更に上等物に至りては每匹八九圓乃至二十圓內外きでわり小官の實見せし十圓內外の品に就きて之を舉ぐれば長さ五丈五六尺、幅一尺五寸物重量四百匁附位にて每匹價九圓五十錢なり

右の如く概ね重量を以て賣買を爲す又柞蠶繭絲の價格は現今繭千箇に附き二圓內外、絲百斤に附き器械製三百七八十圓、坐繰三百圓內外なり（以上第十一報）

（七月二十四日里昂發）

◎東歐諸國養蠶結果の詳報

土耳其コンスタンチノープル府居留佛人組合商業會議所の月報に據れば東歐諸國養蠶の結果は左の如し

アンドリノープル地方の養蠶は洪水の爲め大に困難を極め或る部分に於ては收繭皆無にして其他は概して六割の減作なり

サロニック地方の養蠶は終齡に臨んで不意に暴風雨に遭遇せしにも拘はらず收繭は平年に異ならず而かも品質佳良なり

ベイルーツ平地に於ける養蠶は昨年よりも一割五分乃至二割の減作なり然れども繭質は頗る佳良なり

最初の相場は一「チック」に付十六、十七、十八及ひ十八「ピヤストル」四分の三に騰貴せしが目下十五乃至十六「ピヤストル」半に下落せり又山手に於ける成繭の性質も昨年よりも遙か優等にして其相場は十六乃至十七「ピヤストル」なり此相場を佛貨に換算し生絲一「キログラム」の實價を見るに三十六法に該當するなり

ブルース地方の養蠶は昨年より二割の減作にして其絲量の歩合は生絲一「キログラム」を製するに昨年は生繭十乃至十一「キロ」に止りしが本年は十三乃至十四「キロ」を要せり其不作なる知るべきなり（會員今西直次郎氏譯送）

●釜山大邱地方の蠶桑

釜山大邱地方に於ける農商業の概要に關し釜山駐在帝國一等領事伊集院彦吉氏より本年五月三十一日附を以て外務省へ報告中養蠶に關する事項は左の如し

養蠶は釜山、大邱間に於ては別に飼育するの地なし唯清道附近のある農家に於て家廻桑樹の繁茂せしを目標とし歩を寄せて尋ねしに果して飼育せしを見しが室は密閉したる「オンドル」室にして筵を敷き其上に千匹許並列し上より枝桑を投ぜり給桑は一日二回又は三回にして排糞堆積するも嘗て下替を爲すなく蟲は大小不同にして眠るあり起きたるあり飼育法實に幼稚にして古來本邦に於て飼育せし不完全なる方法より僅は數等劣れり

桑樹は凡て天然產にして立木とす然れども土地桑樹に適するに依るか發育頗る宜し今にして少しく改良を加へ桑樹及飼育法に注意せんか實に意外の好結果を見る或は知るべからず

●北海道瀧川兵村蠶況

京都府加佐郡岡田上村大雲社北海道支部の根據地なる石狩國空知郡瀧川兵村は一丁目より八丁目に至るまで畿屯田四百四十戸九丁目より十五丁目に至つて新屯田四百戸其他屯田以前の人家を合して一千戸許りの村落にして疾く政府保護の下に完全なる村農會を組織せられ屯田兵大隊長陸軍少佐從六位勳四等功五級佐藤當可氏會長たり同農會の事業として去る明治二十七年已來四ヶ所の養蠶傳習所を繼續設置し生徒の養成と蠶種の製造を爲し來りしが本年は京都府大雲社同村に支部を設置し農會と提携し大に規模を擴張して蠶種を製造することゝなり傳習所は同じく繼續設置せり

第一傳習所は大雲社派出員佐藤桝太郎氏第二傳習所は同山下竹藏氏第三第四兩傳習所は前年來の擔任者各擔當去る六月一日より十四日に亘りて小石丸、青熟、又昔の三種（原種は瀧川兵村傳習所製と京都府大雲社製なり）蟻量總計九十反六分五厘を掃立たり其一日及び三日に掃立たるものゝ如き桑葉至て稚嫩なりしを以て給桑回數僅に一日四五回に止め且つ六月初旬の天候は甚だ寒涼にして朝夕の如き殆ど初冬の感あり以て蠶兒の發育頗る遲鈍にして一齡間に十二三日の長日時を要したれども中旬即ち二齡に至りてに氣候温暖となり桑葉も大に伸暢したれば給桑回數も七回を增せしを以て蠶兒の發育俄然速進し稚來各所共經過至極良好にて目今早きもの四齡三日目晩きもの三齡二日目なり其他村内一般養蠶家は悉く原種用框製蠶種を掃立て東京西ヶ原蠶業試驗場出身の教師を聘して日々巡廻教授を爲しつゝあり一般蠶兒發育の經過佳良にして三齡も傳習所と別に大差なし

本道の養蠶は至極單純なるものにして飼育至て容易なれば無經驗なるもの不完全なる蠶室にて蠶具の不整頓を以て此業を營むも尙能く相當の結果を得彼傳習所の如き完全なる蠶室を搆へ蠶具を整頓し然る上技術堪能の技手之れが操縱に從事するものに於ては其結果の良好なる火を睹るよりも明なり今本道養蠶の容易なる一二の理由を摘記せば第一氣候寒冷にして掃立期は非常に後るゝ雖も例年蠶兒掃立已來俄然暖氣に向ひ（本道は綿入より單物に移るは通常なり）一齡中と雖障子を開放して能く飼育に從事するとを得れば新鮮なる空氣十分に新陳代謝するを以て彼の温暖飼育家の最も憂慮する空氣否諸種の悪瓦斯鬱滯等の恐れ更になし第二空氣常に清潔乾燥加ふるに桑葉は悉く天然の野桑にして桑肉薄ければ蠶座の乾燥常に宜しく少し位除沙を怠るも類沙酸醗等の恐れ更になし右二點の如きは内地に於て得難き本道獨得の長所にして特に空氣清潔と云ふ點に至つては恐らくは全國其比を見ざるべし之れ本道蠶兒をして强健ならしむる大素因ならんか

同傳習所は高官紳士の來觀繁く過般も屯田兵檢閲のため來道せられたる野津陸軍大將永山第七師團長（陸軍中將）及大隊長、副官同道來觀せられ野津大將には蠶業上に就きて種々下問せられ第一傳習所主任佐藤桝太郎氏より一々懇篤に答辯せしかば大に滿足の模樣にて國家の爲め以後倍々精勵すべき旨親しく懇諭せられければ佐藤氏初め一同感涙に咽びたりとぞ

●生絲直輸出奬勵法の日英新條約違背

倫敦商業會議所にては本邦の生絲直輸出奬勵法を以て日英新條約に違背するものなりと決議し同國外務大臣へ具申する所ありし趣其筋に公報ありた

り該法と條約との關係に就ては已に今春來種々の議論ありて新聞にも散見せし如く該法が新條約と兩立せざるは明瞭の事實なるを以て政府も第十一議會には同法廢止案を提出する意見なるやに聞くと或る新聞にものせり左もありなむ

●本年絲況の案外好景氣なりし理由

として譖られた英國蠶絲鑑定師橋本重兵衛氏の意見は左のごとし

昨二十九年度は海外各國農產物の不作なりしより其餘波延て本年におよび本年は非常の不況に陷り四、五、六月に至りなば百斤六百五七十圓臺に低落すべきは必然の勢ならんと思惟せしが實際は之れに反し大に好況を呈したるは即ち印度國の飢饉の結果より生じたるものと云はざるを得ず該國の飢饉は去る十一月より初まり本年一月中最も甚し然るに印度政府は救濟の道なきより各國に義捐金を仰ぎ其收得金を以て差當り北米合衆國の小麥粉を買入たり合衆國は三四年前より小麥粉販賣に苦み居りしに恰も此好機を利し二三年のヒマ粉まで一時に賣渡したり故に米國は數年打續きし不景氣を回復し殊に平常の賣價より二割五分乃至三割方も高直に賣拔けたり其金額は二千五百萬弗にも昇り之に船賃を加算せば三千萬弗以上も流入したらんと云ふ然るに居留地新九十番館は機敏にも米國向太絲は我市場に堆積して賣込商及び製絲家も意外の損失を苦慮しつゝあるを看取し二月上旬一時に買入たり故に引續き他の商館も買入をなすべき筈なるに他館は更に氣込も見へず反て九十番買入の後反對に安直となりたり蓋各商館の買入ざるは歐洲に於ける土、希の騷擾即ちクリート島の爭にて開戰にも至らんとの想像(ソウゾウ)により一時は更に賣行かず然れども僅に二週日にして土、希開戰するも市場には格別の影響なく又米國には小麥粉の代金流入せしより該國の景氣頓に持直したり於是乎各商館とも買餘ふに至り引續き我金貨問題の衆議院を通過し銀貨下落し從て外國爲替低落したるより一層力を得て高直に賣行き取引所相場も夫に連れ當切又は直取引等大に高直を現したり即ち賣行

盛なるに隨ひ太絲一番品は欠亡を來し「スペキレーション」の策を初むるに至れり當春中より金貨本位の爲めに我市場は大に利益し即ち昨年度の生絲は更に賣切りとなりし然るに金貨本位實行の期近くに從ひ外國爲替相場の低落(テイラク)すべき筈なるに更に些の變化を生ぜず却て五十仙方高直を顯したり即ち四十八弗二分の一より四十八弗を往來せり左表の如し

銀塊一「オンス」相場

六月十五日	廿七片二分の一
同　廿五日	廿七片十六分の九
七月に入りては銀塊相場付更に銀行著は報道せず	
七月十二日	廿七片十六分の十一

右日限までは至當の相場なり

米國爲替受取相場

同　三十日	廿六片十六分の五
八月四　日	廿六片八分の五
同　十五日	廿七片四分の一
同　十六日	廿五片十六分の十五
同　十七日	廿五片四分の一
同　十九日	廿四片二分の一
同　廿二日	廿三片四分の一

銀塊一「オンス」より割出したる米金爲替相場

四十八弗四分の一	四十八弗
四十八弗四分の三	四十八弗八分の一
四十八弗四分の三	四十八弗二分の一

金貨本位の爲めに相違ぜり

四十八弗二分の一	四十六弗半	其　差　金
四十八弗八分の五	四十六弗四分の一	二弗
四十八弗四分の一	四十七弗半	二弗三七五
四十八弗八分の五	四十五弗	四分の三
四十八弗八分の五	四十四弗	三弗六二五
四十八弗四分の三	四十二弗二分の一	四弗六二五
四十八弗四分の三	四十一弗二分の一	六弗二五
		七弗二五

金貨實行十月一日とあるより銀塊は下落するも外國爲替は之れに反し五十仙方の高直を現したるは金貨制施行期日近くにより利子の差額を補充すべき必要より引上りたるものならん今日我生絲百斤八百五十圓にて賣却するものとせば外國銀塊相場に比較する時は一千圓に賣却せしと同樣の結果を見る即ち百五十圓の損失をなしたるの觀あり故に我國は今日已に純然たる金貨國となり了したる如

き有樣なるに然るに清國は之に反し銀貨國なるが爲め充分なる利益を見たり乍併例年の慣習に依り生絲先賣約束をなしたるより割合には利益にならず二週間前までに多額の荷物賣約束せしよし乍去上海製絲所に於ては內地繭の相場高直にして又養蠶不作の爲め不足にして昨年繭買入の半額に過ぎず故に製造絲(器械)の如きも半數ならんと云ふ

我國も來る十月一日金貨制度施行の上は常に輸入は輸出に超過すべきは必然の數ならん局に當るもの宜しく戒心すべきにこそ

●豐多摩郡の弘進社　弘進社は東京府豐多摩郡井荻村の有志家大澤初藏、小俣金重、宮崎內喜、梅田伊兵衛、小俣孝太郎、內田島五郎外數氏の設立に係り目下社員五十餘名を有し主として蠶種の合同購入を爲し又巡廻教師を聘用して專ら蠶業の改良發達を圖るにあり而して本年同社員の諸氏は大日本蠶絲會員にして西ケ原蠶業試驗場の修業生なる長野縣入福澤繊太郎氏の巡廻教授を受けたりと今其の蠶況を聞くに蠶兒は五月七日より十二日に亘りて發生し六月二十日に至りて悉皆上蔟し實に近年稀有の上作なりしといふ

●新潟縣北蒲原郡蠶種家懇話會　同會は去月十六日新發田町北辰館に於て開會し發起人總代吉田源次郎氏(大日本蠶絲會員)開會の趣旨を述べ夫より衆望に依り同氏を座長に推し左の各項を決議せり(大日本蠶絲會員本間宏氏報)

一、蠶種業者の團躰を組織するの件　は大に其必要なるを認め蠶種業會なるものを組織し會則を議了し幹事に吉田源次郎、大野捨太(大日本蠶絲會員)の二氏を撰擧せり

二、蠶種檢査法及同施行細則研究の件　は各自之が研究をなし不明の條項は其筋に就て承合し之を會員に報告することに決せり

三、原繭標準撰定の件　は明年八月に於て蠶種業會の事業として原繭標準撰定會を開くこと

一會員は其飼育せし各種類毎に任意の撰繭法に據り撰別したる繭一升づゝを出品すること

一審査員には本縣技手及本縣農事試驗場技手の出張を請求すること

一原繭標準撰定に必要なる標準の制定方を大日本蠶絲會(請求すること其要點左の如し

第一、大躰の絲長を定むべき事　第二、大躰目的のデニールを定むべき事　第三、一升又は百匁に對する大躰の粒數を定むべき事

一蠶繭標本を蒐集すること　右標本は大日本蠶絲會第三回品評會へ出品せし種類にして標本に適當なるものは相當代價を以て蠶種業會へ拂下られたき旨を請求すること

四、新潟縣新發田蠶種檢査支所を北蒲原郡役所內へ設置せられんことを請願するの件　は其筋へ願書を提出し吉田源次郎、遠藤卯三郎、高澤輔四郎(大日本蠶絲會員)の三氏を推撰して願意を陳述せしむることに決せり

●福島縣の蠶種檢査　福島縣にては本年蠶種取締規則を改正し原種用種は勿論製絲用種と雖も檢査を經ざれば賣買授受することを得ざることゝなり其檢査を實行する爲め縣下に二十七ケ所の檢査所を設け五百六十餘人の檢査員を任命し各檢査所共去月十五日より製絲用種の檢査に着手せり而して掛田檢査所は所長大橋伊三郎氏及首席檢査員齋藤常吉氏外六名にして該檢査所部內の蠶種は昨年より蠶蛹の檢査を行ひ有毒のものは殺蛹せしめて製種を許さず其後製絲用の檢査を受けざるものは賣買を許さざることゝなし本年も又蠶蛹の檢査を行ひ有毒のものは殺蛹せしめて病毒少きものゝみ製種を許したることゝして其成蹟は至極良好なりと尙當時實行しつゝある檢査の方法は受檢者は蠶種に種類名稱枚數を記したる申請書を出し受付は之れを受取り受付年月日及番號を記入し一の補助員に渡す補助員は之れを受けて蠶種を摩り落し之れを大なる茶碗に入れ夫れに符籤を添へて他の補助員に渡す補助員は之れを受けて乳鉢にて摺潰し先きの符籤を添へて又之れを檢査員に渡す檢査員は之れを檢査し先きの符籤に歩合を記して書記に渡す書記は之れを受けて成蹟簿に記載することゝなせり此方法を以てすれば檢査員は何人の製造したる蠶種を檢査しつゝあるや知る能はざるを以て事情の爲めに不正の檢

査を行ふが如きことは爲し能はざる其法なりと

●共同稚蠶飼育の好結果　蠶兒の不同なく眠起を一齊ならしめんには揃立より三齡に至るまで最も注意せざるべからず然るに普通の養蠶家は給桑の量少なきため其度數及溫度等を誤り遂に蠶兒の不同眠起の不齊なるに至るもの少なからざるなり此の害を免かれんには數戶若くは十戶共同飼育に如くものなし山口縣玖珂郡遠前養蠶傳習所に於ては本年其飼育を廳谷村權隨三十歲、平地平歲、上尾繁道遠前村重田判次郎、上村友藏の五氏が實驗のため揃立より二眠起まで共同飼育せしに蠶兒の不同なく眠起一齊にして上簇の際も亦一齊し其成繭頗る良好なりしといふ

●御法川直三郎氏の名譽　大日本蠶絲會員御法川直三郎氏は製絲器械發明の廉を以て同氏の鄕里なる秋田縣知事より左の賞狀に金牌壹個を添へ贈與せられたりと云ふ　御法川　直三郎

多年生絲の改良を謀り專心之を考究し遂に完全なる製絲器械を發明し以て斯業に利益を與ふること甚だ大なりとす依て別紙目錄の通金牌壹個を贈り玆に其功勞を表彰す

明治三十年八月六日　秋田縣知事正五位勳五等　岩男三郎

●兒玉實詮氏小傳　氏は文久三年十一月七日薩摩國日置郡土谷村に生る實名を八郎太と稱す家世々農を以て近鄕に聞ゆ幼にして頴悟氣宇宏濶宛も成人の如し人呼むで神童と稱す長じて基督教の信徒となる風雲溫恭なりと雖も中庸穀にして使すべからざるの概あり素行篤實にして虛飾を厭ひ人に接するに誠壁を構へず是れ大に其名譽を博したる所以なり氏年十七笈を負ふて東京に出で大學豫備門に入りて修學す幾ばくもなくして大に感奮する所あり決然校を辭し身を蠶事に委ね心を斯業に盡さむことを期し鄕里に歸り鹿兒島縣蠶業講習所に入り養蠶法を修め後ち群馬縣前橋町精絲原社に入りて製絲術を研習し又福島縣伊達郡菅野平右衞門氏に就きて養蠶法を修む後ち東京府及宮城、群馬諸縣內知名の製絲場に聘せられ製絲の靈骨を囑託せらる明治二十年四月農務局蠶業試驗場試驗助手を命ぜられ同年八月蠶種檢査法習得證を受け後ち地方の蠶種檢査員を囑託せらる、事數次或は請に應じて京都、神奈川、兵庫、岡山、埼玉、茨城等の諸府縣へ出張して蠶業の講話を爲し又傍ら地方特有產物の調査を爲し農家の便益を計りたることも亦少なからざるなり二十一年十二月正系蠶繭五十種を撮影し之れに種類撰擇の標準となすべき要項を附記したるもの及び蠶飼の銳なるものを著し之れを各府縣の蠶絲業家に頒布せり又各地を巡講するに方り豫め斯業に關し改良すべき要點を書かしめ之れを幻燈に寫して一々說明し大に稗益する所あり氏が首唱一呼の功これが導火となり農業幻燈漸く各地に流行するに至れり二十五年四月大阪府立農學校助教諭に聘せられ在職三年餘其間諄々誨へて倦まず練達なる妙技と溫厚たる風采とは俱に子弟の尊敬を受け同校の面目を刷新したるのみならず延て同府下蠶業の發達を促したるの效少なしとせず又該校の養蠶室及製絲場の設置を始めとし大阪府堺製絲株式會社、宮崎縣富國社、島根縣山本製絲場、鹿兒島授產學校蠶絲講習所及大阪府茨木興產株式會社に於ける製絲場の設計をなしたり二十八年生絲檢査所の創設せらるゝや氏が蠶絲の業に精通せるの故を以て生絲檢査所技手に擧げられ神戶在勤を命ぜらる在職一年餘にして三十年二月蠶業講習所技手に轉じ製絲部を擔當せらる爾來專心同所製絲機械の創設に力を用ふ幾月ならずして東京府下巡講の命を奉じ發するの後寒冒に罹るも留屋せず夜以て日に繼ぎ西奔東馳孜々として講話を勤め毫も倦むを知らざりしと云ふ然るに未だ命を復せざるに當り罕丸炎を發し治を醫科大學醫院に請ひしも藥石效を奏せず遽然として逝きぬ實に明治三十年六月十六日午後三時なり氏常に曰く斃れて而後已むと果して其言を屢めり嗚呼哀哉氏夙に壯圖を抱き身を蠶絲の大業に委ね刻苦經營而して素志の一半だも果たさず今や幽明其境を異にし復た相見る能はず哀悼焉ぞ堪へむ

明治三十年八月　　辰知　熊本縣人　增田由之謹誌

●奈良縣宇陀郡繭品評會褒賞授與式

同會第二回授與式は七月二十六日宇陀郡松山町なる同郡役所内に於て執行せり會場内外の裝飾は躰裁甚宜しく出品陳列も前回に比し大に整頓せり今授與式の次第を畧記せんに第一號鐘にて縣會議員隣郡長蠶絲業組合總長蠶絲業巡廻教師其他の來賓事務員審査員等入場第二號鐘にて知事代理後藤書記官着席一同敬禮席定まるや審査長は審査成蹟を報告し授賞を申請す事務長は優等者に賞を授く即一等三人、二等七人、三等十五人、四等五十八人、五等七十五人合計百五十人なり而して同郡長即事務長島樣吉氏式辭を朗讀し後藤書記官祝辭を陳べ蠶絲業組合總長堀内忠司、蠶絲業巡廻教師川合菊次郎の二氏其他二三の祝辭あり最後に出品人總代の答辭ありて式終り一同退場せり此日徽兵檢査の爲め出張ありし檢査官も式に列せり書記官の祝辭及審査長の報告は左の如し

祝　辭

爰に宇陀郡繭品評會を開き本日を以て褒賞授與式を擧ぐ今親しく列品を見るに佳良なるもの頗る多し抑も本郡は縣下蠶業上最も隆盛なる極め殊に御殿の原野は將來益〻原業の發達を期するに足る彼の長野縣の如きに於ては蠶業の進歩は一郡にして每歲四五百萬圓の收穫あり本郡亦方法其宜しきを得ば遂に彼と比肩する決して難きにあらず座幾ば諸氏益〻奮勵大に本郡の富源を開發せられんことを式に臨み一言希望を叙し祝辭に代ふ

奈良縣知事代理
奈良縣書記官從六位勳六等　後藤松吉郎

審査長の報告

明治三十年七月二十六日

第二回宇陀郡繭品評會開設せられ正鵠を審査長に承く本回出品の總數は四百七十七點にして之れが審査に着手せしは本月二十日なりと爾來規程の審査法に從ひ凡て之を精調に公正不偏唯其優劣を品物其物に徴し專ら審査の確實に留意せり而して同月二十三日に至り其優等なるもの百五十點を選定するを得たり之れ即ち審査員諸氏の老練と精勤とに依らずんばあらざるなり玆に審査成績表を製し擬賞を付せり願くは授賞あらんことを次に出品人諸氏に向ひ審査の概概を摘擧して參考の資に供せんとす抑も本回出品の繭は之を前回に比するときは其數に於て倍蓰のみならず（前回二百五點）其品質形狀等に於ても亦大に改善するものあるを見る是れ奬勵の宜しきものあると自覺の力强きとに職因せずんばあらざるなり實に國家の大慶事たり然れども尙玆に諸氏の注意を喚起せざるべからざる一事あり殺蛹貯繭の不完全なり出品物中殺蛹不完全の爲め外觀を失するもの二割に及ぶ殊に二合内外の繭にして尙蛹の乾燥一定ならず又其時期を過るものを散々にしてこれあり是れ其時期を經視するを期せざるべからず夫れ殺蛹の事たる成繭上重大の業務にして其法を誤まらんか觀節の寄生を受け光澤を失するを期せざるべからず夫れ殺蛹の乾燥一定ならず又其時期を過るものを散々にして之れ

せられんとす實に長大息せざるべからず其罪固より地方製絲業家にのみ歸すべき に非ずして原料の生産者たる養蠶家の責亦多なり故に之が改良を計り進歩を促すは今日の最大急務にして一日も等閑に付すべからず今や纖維論は社會に囂々たる種類撰定は此社會の一大問題となれり然り高山社長町田菊次郎氏は疾に此に見る處あり數年以來眞種の撰定に汲々として現に支那種及他數種を試驗しつゝありしが氏は奮然私費を抛ち清國に航し況く彼の地の實況を視察し世界市場の上位に立つ所以を探究せんと欲し製絲業の泰斗たる星野長太郎氏と共に五月十八日横濱を出發せられしが七月三十一日無事歸朝せられたり夫れ其術に於て名聲赫灼たるの二氏が齎し歸りたる彼地養蠶製絲實況調査の效績一と度び蠶業社會に出なば今日囂々たる纖維論も靜粛に歸する日將に近きにあるべし云々（以上二件會員角田喜右作氏報）

◉上毛蠶業同志會の報告會

同會は去る四月四日前橋市柳町隍江閣に於て開會したるに出席する者八百餘名なり先づ宮崎有斐氏開會の辭を述べ次で角田喜右作氏は數年來希望したる蠶種檢査法の發布せられたる事歴に就き詳細の報告をなし拍手の中に了り又本縣第五課屬石井攪氏は書記官代理として蠶業者に對する理事者の希望を述べ其他技手針谷伍作氏の講話及都丸綱吉氏の演說會員總代野條愛助氏の答辭次に角田氏が此件に關し數年間私費を抛ちて熱心に奔走盡力したるを稱揚し之に贈るに草鞋一足を以てしたり是れ即一時行脚の名ありし前田正名氏に親炙する角田氏に贈るに草鞋を以てしたることゝして其趣向の奇なるには滿場爲に哄然たりし頓て同志會より角田氏に贈る感謝狀を朗讀し後　兩陛下の萬歲蠶業同志會の健在を三唱して終りぬ時に午後五時頃にして更に會員懇親會を開き來賓一同を樓上に於て饗應す列席の人々は溥書記官、桑原參事官、石井、武藤、齋藤の三屬針谷、大熊、河田、今井、の四技手等なり當日角田氏に贈りたる感謝狀は左の如し

帝國多數の民は經呼すらく帝國の蠶絲は眞に國產の主腦を占め一大富源なゝ爲すのみならず能く其眞種美實なるの國光を歐米の諸邦に發揮すと雖ども猶以爲らく此の國產上に於ける國光を千秋の下にまで扶持せんとすれば眞の眞種の蠶美實の絲に欺き毒に進んで之を撰正し之を採興せざるべからざるも先づ首に蠶種の改善撰擇を以て急務とし これが改善撰擇の手段として其檢査法を發布せしむるの道とす貴下夙に逆に見るあり義に明治二十三年以來一身を投んで私費を擲ち鋭意專心國光の扶持に盡瘁し蠶種檢査法を實行せしめんとの宿志を以て實業各團體中央本部長田正名君と共に東奔西走殆ど寢食を忘るゝに至り遂に政府をして檢査法を發布せしむるの日を見るを得たり是れ貴下主唱の任に當るの賜にあらずとせんや貴下數年一日の如く國產上に於ける國光を手中の下にまで扶持せんとする國家に忠誠なる意を感ぜられたるの功にあらずとせんや今や吾徒は貴下が此の意に場されたる雜告に接し佩服措く能はず從に吾徒會員感榮の協議を以て敬て滿腔の赤誠を致せる感謝の辭を呈す乞ふ幸に此の辭を遠く貴下の子々孫々に傳へられんことを望む狀を具すること既くの如し

明治三十年四月四日

上毛蠶業同志會員

◉特別廣告

左の諸氏は八月より九月に渉りて入會若くは死亡せられたり

●會員諸件

●入會

○通常會員

東京　平忠次郎
同　河野靜止
同都　橋本龜治郎
京　橋川庄兵衛
神奈川　小山田儀助
同　和田豐太郎
同　潔瀨一良助
新潟　力間伊五郎
同　岸五郎
同　笠原萬治郎
同　西巻永八郎
同　伊藤鶴三郎
同　山崎瀧三郎
同　久須美彌
同　伊藤榮
同　吉澤彦治郎
同　菊地穎道
同　矢澤政次郎
同　戸井田久太郎
同　山口米藏
同　吉田時三郎
同　群馬　小林信藏
同　江原嘉吉
同　谷山靜治
同　中村康四郎
栃木　八下田勝藏
同　河島髮造
佐藤兵次
同　渡邊彌五郎
同　三重　三木長重
武本嵐雄
愛知　伴壽太郎
同　坂野富策
静岡　本間久市
同　古屋景晴
山梨

岐阜　田中房次郎
長野　太田德三郎
同　務臺亮一
同　熊谷增彌
同　武山勝之丞
福島　大橋勝藏
同　佐藤吉藏
同　佐藤長次郎
同　酒井仙太郎
同　橋内忠左衛門

福島　丹治貞
同　丹治吉藏
八島齊
菅野勇作
同　岩手　門坂多喜美
同　森　野村富五郎
山形　長谷川虎次郎
大須賀久三郎
同　伊藤延太郎
同　布施應吉

山形　長谷部健次
同　横山繁松
秋田　佐藤慶太郎
福井　吉田弘
岡山　小原源馬
山口　長谷川祥輔
和歌山　西野重廣
高知　門脇英郎
大分　末松藤三郎
北海道　越鄉玉太郎

計　六十五名

右の内にて平、河野(橘川、小山田、和田、武本、吉田(時三郎)河島、本間、古屋、田中、熊谷、野村、長谷川(虎次郎)横山、佐藤(慶太郎)長谷川(祥輔)末松、越鄉の十九氏は各自に申込まれ橋本氏は松下憲三郎氏、力間氏は山田政綱氏、岸氏以下五氏及び吉澤氏以下二氏は新潟支會、伊藤(榮)氏は玉木寅七氏、矢澤氏は木村九藏氏、戸井田氏は柴田愚三郎氏、山口、江原の二氏は小林升氏、小林氏は境野清衛氏、谷山、中村の二氏は森繁松氏、八下田氏は永島爲七氏、渡邊氏は小野積吉氏、八木氏は山本右太郎氏、俳氏は齋藤道太郎氏、坂野氏は堀内金太郎氏、太田氏は北村榮次郎氏、務臺氏は武田倉一氏、武山氏は加藤養四郎氏、大橋氏以下八氏は齋藤常吉氏、門坂氏は大竹權太郎氏、犬須賀氏以下二氏は山形支會、長谷部氏は羽田喜兵衛氏、吉田(弘)氏は松田昌德氏、小原氏は川井時太郎氏、西野氏は兒玉豐次郎氏、門脇氏は吉良禎吉氏孰も紹介せられたり

●逝去

○名譽會員　東京　子爵　陸奥宗光

●死亡

○通常會員　東京　加藤正茂　一兵庫　谷畑好次

大日本蠶絲會入會手續及會員心得

一　本會に入會せらるゝには住所氏名を詳記したる入會書に一ヶ月金拾錢の割合にて入會せらるゝ月より向ふ一ヶ年分以上の會費を添へて申込まるべし

一　入會以前の會報を要望せらるゝときは一冊に付金拾錢を領收したる後之を送付すべし

一　會費其他の金員を本會に送致せらるゝには郵便爲替又は小爲替證書は拂渡局所名を神田淡路町とし且つ小爲替證書の表面右の方に設けある區畫の「差出人は此處に受取人の宿所氏名を記すべし」とある下に「東京神田美土代町二丁目一番地大日本蠶絲會」と記入せらるべし、通運便に託し現金にて送致せらるゝ節は必ず配達賃拂込濟にせらるべし、郵便切手代用の節は必ず一割增にて送致せらるべし

一　會費金は毎年規定の通り(翌年の分は前年十二月中に)前納せらるべし

一　氏名、住所等を變更せられたるときは其都度直に本會に通知せらるべし

一　退會せらるゝときは必ず其月までの會費を拂込みたる後にあらざれば之を了諾せず

一　會員中死亡せられたるときは其家族又は其地方の會員より本會に通知せらるべし

一　質問書は半紙を用ひ一紙に一件を限り字體は成るべく楷書にて明瞭に記し且つ何府縣何市郡何町村大日本蠶絲會何會員某と署名し又其質問を要する物件方言のみにして本名判然せざるときは成るべく現品を添へて送致せらるべし

一　會費金を督促したる後猶出金せられざる者は之を本分の義務を盡されざる者と看做し本會規則に據り除名すべし

此心得は會員諸君常に能く了知せらるゝは勿論他人の入會を誘導せらるゝの際には殊に之を示されむことを要す

大日本蠶絲會

入會の勸誘と望む

本會創設以來未だ多年ならざるに入會者は陸續として日に月に增加し今や栃木、新潟、富山、靜岡、山形、福島の六縣には支會の設立をも認可するに至り會運は宛も朝暾の昇るが如く駸々乎として隆昌の域に向へり是れ固より有志家諸君が熱心蠶絲業の發達を企圖せらるゝの精神に基くと雖も然れども亦本會が斯業に向つて裨益すること大且つ多なるに由らずむばあらざるなり夫れ既に然り本會は益〻力め愈〻盡す所あらむとす原來本會唯一の目的たるや本邦をして世界第一等の蠶絲國たらしむるにあり而して此目的を達せんと欲せば勢ひ本會員の汎く全國に涉りて最多數を要せざるを得ず就ては滿腔愛國心を以て充たし國家の最大富源たる蠶絲の改善進歩を任せらるゝ會員諸君は精々同志者に勸誘し入會を紹介せられ相共に提携し國家的責任を盡されむことを希望す

但本會に入會せらるゝには一ヶ年分以上の會費を添へて申込まるゝを要す　尙ほ本會規則入用の方は郵券貳錢を添へ御申越あらば直ちに送呈すべし

大日本蠶絲會

幻燈映畫農業ノ部廣告

- 西洋蔬菜　十二枚一組金參圓四拾錢
- 西洋農具及解剖　十二枚一組金參圓
- 米麥果蔬生理　十二枚一組金參圓
- 植物生理　二十枚一組金五圓貳拾五錢
- 改良養種家禽　二十枚一組金七圓六拾貳錢
- 西洋改良種家畜　二十枚一組金五圓八拾五錢
- 西洋種蕃蔬培法　二十枚一組金參圓拾貳錢
- 蠶要實ノ類　十二枚一組金參圓
- 洋蕃蔬培法　十二枚一組金參圓
- 果樹仕立方　十二枚一組金參圓拾六錢
- 害蟲ト其驅除等二著シキ稻麥桑等ノ害蟲ニ關スル實況
- 普通稻作ノ結果　二十枚一組金五圓拾錢
- 改良稻作ノ順序　二十枚一組金五圓貳拾五錢
- 明細目錄御入用ノ節ハ郵券貳錢御送附アルベシ

製造所

東京市本郷區元町一丁目十四番地

- 古今農家ノ比較及善後策　十二枚一組金參圓貳拾錢
- 實業應用養蠶法　三十枚一組金七圓七拾八錢
- パスツール氏蠶病闘　十四枚一組金參圓五拾錢
- 西洋蠶ノ原況試驗所實況　十二枚一組金參圓
- 改良養蠶法　十五枚一組金四圓八拾錢
- 桑園ノ肥料　十二枚一組金參圓六拾錢
- 二宮翁蠶桑園ノ實況　廿九枚一組金七圓貳拾五錢
- 田圃蟲害ノ驅除　十六枚一組金四圓拾六錢
- 農家ノ被害ノ實況　十六枚一組金四圓
- 本邦大祭祝日ノ解說　九枚一組金貳圓貳拾五錢
- 右何レモ說明書或ハ圖解附

進成社

- 幻燈、映畫、顯微鏡、理化學器械

會員諸君に要望す

蠶絲業に關する高見卓說及實地經驗せられたる事蹟は何卒御投稿相成度且又御見聞の次第も有之候はゝ陸續御通信あらんことを希望す

但表類は兎角紙面を多く要し候に付各景況の如きは可成文章に綴りて御報告相成度候

大日本蠶絲會

◎有隣堂害蟲書目錄

●農商務省第二回內國勸業博覽會害蟲圖解說　全一冊　賣價壹拾八錢　郵稅貳錢
●河氏田國害蟲圖說　全一冊　壹圓卅錢　郵稅六錢
●蚜蟲圖解　全一葉　十錢　貳錢
●苞蟲圖解　全一葉　十錢　貳錢
●阿部喜任氏駆蟲方法　全一冊　十錢　貳錢
●曲直瀨蟲宜　全一冊　廿貳錢　貳錢
●桑蟲宿南北田廣三郎　全一冊　十七錢　貳錢
●農業害稻の損　全一冊　三十錢　四錢
●大藏永常帶稻　全一冊　三十錢　四錢
●全上除蝗錄　全二冊　四十錢　四錢
●梅原寬田國驅蟲實驗錄　全二冊　四十錢　四錢
●服習樹害蟲新說　全一冊　六十錢　六錢
●農商務省月報第七（害蟲ノ說アリ）　一冊　三十錢　四錢
●農商務省（害蟲ノ說アリ）　一冊　十八錢　四錢
●豐田慶答錄　全一冊　五十錢　四錢
●重要害蟲要說　全一冊　九十錢　六錢
●植物害蟲要說　全一冊　五十錢　四錢
●松村松年右は各地方より害蟲に關する書籍御照會類りに付貴答に代マ本紙に掲ク

農事新報

第百七十一冊前金郵稅八錢　第百八十五冊前金郵稅七錢
一冊五錢　九錢前金ならは見本は切手共に送付せすは爲替

は南傳馬町郵便受取所に限り振當に付賣價○紙代手代用は一冊郵稅共五錢○郵便切手代用は一冊郵稅七錢○郵便爲替は東京神田淡路町郵便局

牧畜雜誌

毎月一回發行

第六拾參號目次（八月十五日發行）

○論說　第四拾貳號走の密○豚說○養豕業の前途如何
○雜錄　●車馬の毛色●白耳義馬種●獨逸國產馬改良の●牛の著名法（接第百四十一號）●新潟縣牧畜に就て（承前）●馬の毒草●牛に於ける急性中毒●馬の毒草中毒に於ける救急法●飼料牧草の種類及其栽培法（第百四十一號の續き）●家畜の內の蟲●蛔蟲（第百四十一號の續き）●寄生蟲●虎列拉○問答●種牛交尾法●乳牛擾種に付質問（第百四十一號）●藏夢の件に付質問●流產の件に付質問●養豕の料答●養羊に付き質問●養蜂に付き質問●飼料に付き質問●計數●醫學●獸醫●製鹽●製糖●製茶●製絹●製靴●製皮●清國天津牧場●清國營口牧場●清國奉天牧場●清國釜山牧場●清國大連牧場●輸出牛●輸出馬●輸出豚●輸出家禽●輸出蜜●輸出蜂●輸出蜂蜜●輸出蜂蠟●輸出蜂巢●輸出地●輸出品●輸出家畜●輸出家禽●輸出米●輸出穀●輸出豆●輸出種●輸出種牛●輸出種馬●輸出種豚●輸出種鶏●輸出種鴨●輸出種鵝●輸出種羊●輸出種山羊●輸出種犬●輸出種猫●輸出種兎●輸出種蜂●輸出種蜂巢●輸出種蜂蜜●輸出種蜂蠟

商標 人造肥料廣告

●第三回第四回勸業博覽會有功二等賞牌賜ヲ
●大日本農會賞第三十二回農產品評會賞狀賜ヲ
●人造肥料各種骨粉肥料●製

純良過燐酸

右成分保證の上品質善良正確なる勉强代價にて手廣く販賣仕候間不相替御注文の格別御詳細施方法御用の方は拾七番地次第本廠へ請求書御入用の方は郵便にて御送付の上御用の程御願ふ特約●荷造料共九十錢（正味廿七貫目入袖來の俵）送料共五百五十錢●試用の方は遠近を問ハず即刻御申込の向は郵便にて御送付あれば●風袋共一俵一錢●賣捌の儀は小包

●春蠶種分與に就き會員諸君に紹介す

本會特別會員長野縣下伊那郡喬木村市瀨善治氏より左記の通り春蠶種小石丸五拾枚を會員諸君に分與せらるゝ旨申出でられたるに就き右要望の向は同氏に請求せらるべし此段會員諸君に紹介す

明治三十年九月

大日本蠶絲會

春蠶種寄贈

一改良小石丸五拾枚也

不肖多年會員の末班にありと雖も性來家開海隱未だ諸君の好意に報ずる所なきを遺憾とす然るに平素の業務蠶種製造にあるを以て今歲は春來の計畫漸く熟し前記小石丸五拾枚會員諸君に頒ち以て平素の寸志を表せんと欲す幸に紹介の勞を執られんことを請ふ敬具

明治三十年八月

長野縣下伊那郡喬木村

大日本蠶絲會特別會員　市瀨善治

大日本蠶絲會御中

蠶種希望者は左記の手續を履行せられんことを求む

一蠶種の寄付は一名一枚に限る事

一希望者は住所及會員たることを申込書に明記すべき事

一希望者は蠶種遞送に係る箱代及郵送料として郵券貳錢切手五枚を申込書と同時に送付せらるべき事

一應需の順序は申込の前後に從ふ且つ希望の枚數已に豫定の數に滿ちたるときは送付の郵券を返送し辭退の意を報致すべし